

2025年度
環境経営レポート
第17版

【R6年度新>1>7>4>50>3.3
エコアクション21



®環境省
エコアクション21
認証番号 0004532



大垣市歴史文化遺産 中山道赤坂宿脇本陣跡












伊藤鉄工株が歩む
スパイラルアップへの道

対象期間 2024年10月1日～2025年9月30日

伊藤鉄工株式会社

発行日 2025年10月21日

も く じ

	ごあいさつ	-----	2
	I.組織の概要	-----	3
	II.対象範囲	-----	5
	III.環境経営理念・環境経営方針	-----	6
	IV.環境経営の運用	-----	7
	V.今年度の環境経営計画と実践	-----	18
	VI.今年度の「日常のPDCA活動」の実践	-----	28
	VII.環境経営目標の実績と評価	-----	30
	VIII.次年度以降の環境経営目標及び計画	-----	36
	IX.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	-----	39
	X.代表者による全体評価と見直し・指示	-----	40

表紙写真説明 中山道赤坂宿(なかせんどうあかさかじゅく)

中山道赤坂宿は、江戸時代に整備された五街道のひとつ、「中山道」の宿場として栄え、江戸時代後半の天保14年(1843年)には、宿場内に292軒の町屋が建ち並んでいました。

御嫁入り普請

文久元年(1861年)、皇女和宮が降嫁した際、大行列一行が宿泊しましたが、赤坂宿ではそのために中山道の街道沿いにあった古家の建替えや空き地に新築を行い、54軒もの家が建て直されました。街道からの見栄えをよくするために表側だけが二階建てという珍しい家です。これが世に聞く「お嫁入り普請」です。



昼飯大塚古墳

全長約150mにもおよぶ岐阜県最大の前方後円墳で、今から約1600年前に造られました。現在は、歴史公園となっています。



赤坂本陣公園

入口に、皇女和宮が赤坂本陣に宿泊したことを記念した、和宮の碑が置かれています。また、本陣公園内には、美濃赤坂宿出身の所部太郎の像があります。所部太郎は、井上馨(外務大臣)が襲撃を受けて、瀕死の重傷を負ったとき、畳針で傷口を縫い、一命を助けた人物として知られています。



金生山化石館

金生山は、2億5千万年前(古生代ペルム紀)、赤道直下のサンゴ礁に生息した、フズリナ、サンゴ、ウミユリ、巻貝、二枚貝などの化石が豊富に産出し、「日本の古生物学発祥の地」として知られています。化石の中でも、シカマイアという二枚貝やウミユリは、世界一の大きさを誇っています。



ごあいさつ

弊社の中期計画期間は基本的に3年間で、今回のレポートは第17版になり、第6次中期計画の2年目になります。第5次中期計画まではエコアクション21が太い幹になるように多くの枝葉を茂らせ成長に務めてきた。その流れの中であって、第6次中期計画1年目は、過去から継続した課題である3種類の「報告書」の活用とエコアクション21の取組の見直しを課題にしてきた。

3種類の報告書とは、2019年度の年度末反省で伊藤鉄工が更なる発展を目指すための取組として、「誇りある伊藤鉄工を目指す」を頭にしたフィッシュボーンを全従業員に記述していただいた。その出てきた回答を協議した結果「作業ミス報告書」と「作業改善報告書」の2種類が成立した。その後作業ミス報告書が始末書的で不評になり協議した結果、作業ミスになりかけた取組みを記述していただく「ヒヤリーハット報告書」に行き着く。この報告書は、弊社独自の報告書として、「ヒヤッとしたが事故を防いだ内容」と「ヒヤッとしたが作業ミスを防いだ内容」の両方を記述する報告書である。

最終的に報告書は、①不良対策報告書 ②改善提案報告書 ③ヒヤリーハット報告書の3種類になった。

この報告書から見えてきたモノは、

- 報告書の活用は、全社員の協議結果であるため周知徹底する必要がない。
- 報告書の内容は、社内会議の議題にして全員で対応が出来ること(3人寄れば文殊の知恵)。
- 従来の環境負荷削減の取組は、スローガン形式で個人個人の努力であったが、報告書のシステムは、取組結果によって環境負荷削減が自然に着(つ)いてくる考え方である。この考え方をブロック図で示すと「環境負荷削減の取組」の報告書からの流れ(右上図)になる。

※以上報告書の効用は本レポートの項目IV. 環境経営の運用>1. 環境経営の考え方>8. 「報告書」の項目で詳細に取り扱っている。

また、第6次中期計画2年目の今年は、消費電力を見直した結果次の事柄に気づく。EA21を取組始めて昨年度まで売上高と消費電力の散布図からの回帰線式は $y = ax + b$ となる。その式のbを、売上高が0円で消費電力が発生する固定消費電力と名づけ、aは回帰線式の勾配になり単位はkWh/万円になる。この値は売上高によって消費電力が変動するため変動消費電力と名づけた。

このように消費電力を変動と固定消費電力の存在を確認した。この段階で私たちは、回帰線式の勾配の単位から変動消費電力原単位(kWh/円)に相当し、作業効率の指標になることに気づく。

このことから、変動消費電力原単位の指標から私たちの作業効率の現状を見極め作業効率の目標値を設定し目指してきた。

ところが、変動消費電力原の実測(算出)が非常に困難であることが判明した。更に、消費電力の削減をエアコンについて考えた時地球温暖化が叫ばれている中で私たちが温暖化を止めて消費電力の削減の削減に努める考え方は、不合理である。また、エアコンの使用量削減を目指して、暑さ・寒さに耐えて作業する考え方も不合理である。

従って、本年度より消費電力をエアコン消費電力と製造消費電力の2つに分類して、エアコン消費電力は削減目標は0%とし、スローガンによる消費電力は製造消費電力のみとした取組にして、この定点観察を継続してPDCA活動を継続していきたいと考えている。

以上本レポートをご高覧頂き、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

環境負荷削減の取組

スローガンからの流れ

報告書からの流れ

目標値スローガン

報告書作成

具体的な取組が見える

具体的な取組が見えない

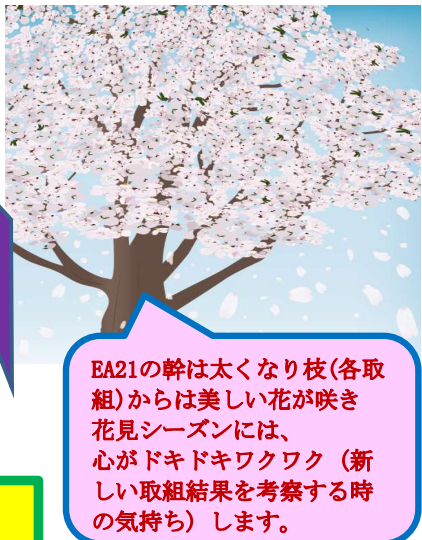
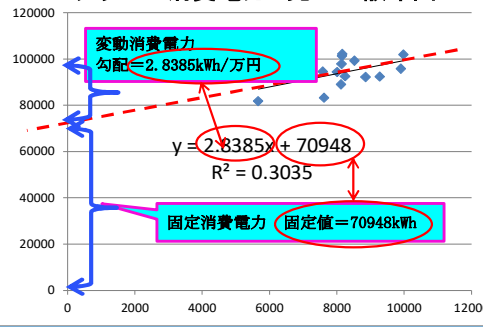
報告書について、対応を協議する

報告書について、対応結果の実践

目標値スローガン

負荷物質の削減が着いてくる

グラフ1. 消費電力と売上の散布図



EA21の幹は太くなり枝(各取組)からは美しい花が咲き花見シーズンには、心がドキドキワクワク(新しい取組結果を考察する時の気持ち)します。

2025年10月21日

伊藤 誠



I. 組織の概要

- 1. 事業者名 伊藤鉄工株式会社
- 2. 代表者名 代表取締役 伊藤 誠
- 3. 所在地 〒503-0985
岐阜県大垣市野口三丁目1番地7号
- 4. 連絡先 TEL 0584-91-6849 / FAX 0584-93-0075
E-mail heky66@proof.ocn.ne.jp
- 5. 経営理念 お客様のご要望に「確かな技術・誠実な対応」で応え、
社会の発展に貢献する。
- 6. 事業の概要 金属部品(治工具、試作品、金型部品)の加工
- 7. 事業規模
 - ①創業年月 1969年8月(昭和44年)
 - ②資本金 3,456万円
 - ③従業員数 10名
 - ④面積 敷地1657.6㎡ 床495㎡

1. 主な設備

マシニングセンター

複合NC旋盤

汎用旋盤

汎用フライス

ワイヤーカット



万能投影機

工具顕微鏡

拡大鏡

ファインマイクロスコープ

サーフテスター

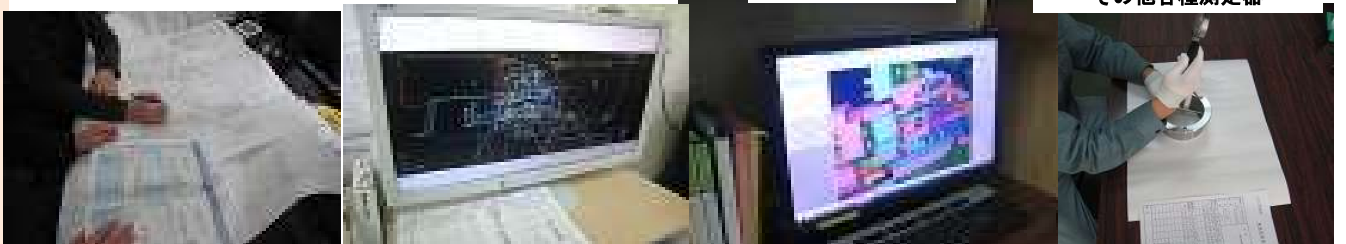


二次元図面の読み取り

2次元CAD

3次元CAD

シリンダーゲージ
その他各種測定器



2. 主な製作部品

3次元CAD・CAM、ワイヤーカット、MCなどを使用して、複雑な金型、治工具、試作品の加工技術を保有



3. 主な製品



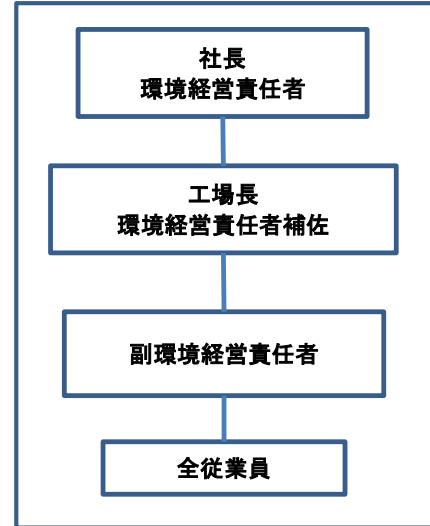
4. 伊藤鉄工(株)の変遷・足跡

1969年(昭和44年)	創業
1979年(昭和54年)	伊藤鉄工(株)を設立
1996年(平成 8年)	地元 5 社が共同で「大垣テクノメタル協同組合」を結成し、工業団地として大垣市野口の地へ移転
2010年(平成22年)1月25日	エコアクション21の認証を取得
2011年(平成23年)3月15日	認証・登録番号 0004532 第14回環境コミュニケーション大賞の環境活動レポート部門で「奨励賞」を受賞
2016年(平成28年)5月30日	第2回環境人づくり企業大賞2015で「優秀賞」を受賞
2020年(令和2年)2月19日	第23回環境コミュニケーション大賞の環境経営レポート部門で「優良賞」を受賞
2023年(令和5年)3月25日	エコアクション21 オブサイヤー2022の環境経営レポート部門で「優良賞」を受賞
2023年(令和5年)12月15日	「大垣テクノメタル協同組合」閉鎖
2024年(令和6年)3月24日	エコアクション21 オブサイヤー2023の環境経営レポート部門で「優良賞」を受賞



Ⅱ.対象範囲

1. 認証・登録範囲(全体組織・全活動) 対象事業所：本社・工場
対象活動：事業内容のとおり
2. 対象期間及び発行日 対象期間：2024年10月1日～2025年9月30日
(2025年度の当社会計年度)
第17版 発行日：2025年10月29日
3. 次期作成予定日 2026年10月下旬
4. 環境経営組織 右図参照
5. 環境経営組織と担当者
①環境経営責任者 伊藤 誠
②環境経営責任者補佐 伊藤 とも子
③副環境経営責任者 山田 韶月
6. 環境経営社内会議 全ての会議は、全従業員が出席
(1) C会議 C会議とは、環境活動成果を「環境経営計画」表に基づいて半期ごとにチェックする会議で、P D C AのCを冠した会議
(2) 伊藤鉄工しぐさ更新会議 2022年度までは、江戸しぐさの実践報告会でした。2023年度からは、伊藤鉄工しぐさを全従業員がローテーションで創作し全員が実践報告する会議
(3) 昼礼・昼会
7. 環境経営組織と担当者の役割



区 分	役 割		
組織	環境経営責任者	1. 環境経営に関する統括責任者 2. 環境経営に必要な人材、設備、費用、時間、技能、技術者の確保 3. 各責任者の任命 4. 環境経営理念・方針の策定、見直し、及び全従業員への周知徹底 5. 「代表者による全体の評価と見直し・指示」の作成 6. EA21の更新・中間審査資料全般の承認 7. 「環境経営レポート」の作成指示と内容確認と公表の承認 8. 社内外の環境情報の適切な処理	
	環境経営責任者補佐	1. 環境経営責任者の補佐 2. 「保全カレンダー」により、EA21に関する取組の指示 3. 「環境経営レポート」の作成内容の確認 4. その他EA21に関する取組全般の進捗状況の把握と取組の指示 ※社内の受注状況とEA21取組状況の調整	
	組織	副環境経営責任者	1. 環境経営責任者及び補佐の援助 2. E A 2 1 推進事務局(C会議、伊藤鉄工しぐさ更新会議、エコ会議、その他EA21に関する会議等の推進) 3. 「環境への負荷の自己チェック表」及び「環境への取組の自己チェック表」の作成 4. 「環境経営計画表」の作成 5. 環境経営の実績値の集計と環境経営責任者及び補佐への報告 6. 「環境関連法規」の一覧表を作成し、管理及び遵守状況の評価 7. 「環境経営レポート」の作成と公表 8. 各種環境関連文書の作成と保存管理 9. 環境教育・訓練の立案・推進 10. 社内外の環境情報を集約し環境経営責任者及び補佐への報告
		全従業員	1. 環境経営理念、環境経営方針の重要性を自覚 2. 会議で決めたことは、自主的・積極的に取組む

8. 環境経営の会議の役割 (2025年度内容の変更部分は、「青」文字で示す)

区 分	役 割
会議	1. 全ての会議は、全従業員が出席 2. 場合によっては文書会議(リモート)でも良い
C会議	1. 実施時期は、年度初めに新年度の計画案の提示、半年後には前期の取組チェック、年度末直後には1年間のチェックで、原則年3回とする。⇒ 新年度の初めのみ実施 2. 会議内容は、「環境経営計画表」資料に基づき取組をチェックする

会議	伊藤鉄工しぐさ更新会議	1. 目的は、伊藤鉄工しぐさを通して当社の経営理念にある「人間的成長を図る」こと その為に、期間中に設定した「名言」を全従業員が実践報告しお互いが切磋琢磨する 2. 名言は、全従業員がローテーションで創作し提案する 3. テーマの実施期間は、3か月間程度を原則とする
	昼礼(昼会)	1. 原則毎週月曜日の12時45分から10分前後の短時間での連絡会 2. 社長、工場長が会社経営に関する様々な内容の伝達、報告、依頼 3. 全従業員の発言の場(必要な連絡・報告・簡単な協議等)

9. 環境経営文書管理と内容 (2025年度内容の変更部分は、「青」文字、本年度取組未実施は、「赤」文字で示す)

区分	内容	
資料の製作と保存管理	実績値の集計	1. 電力、ガソリン、軽油、LPG、水の消費量及び鉄屑(再生可能)、水溶性廃油(廃棄)、油性廃油(再生可能)の使用量、廃棄量とそれに関する費用の集計 2. 各車両の走行距離の集計(化石燃料の削減指標) 3. 月毎のエアコン稼働時間の集計(エアコン固定消費電力値の計測)
	啓発資料の製作、更新	1. 伊藤鉄工しぐさのポスター製作と過去ポスターの掲示 2. 月毎の「使用電力量の推移」グラフの記入 3. 社内エコ活動掲示写真(啓発用)の更新⇒2025年度未実施 4. ホームページ、会社案内の更新⇒2025年度未実施 5. その他掲示物の製作
	施設・設備の点検票と文書の保存・管理	1. 日常点検票(クレーン) 2. 改善点検票(月1回社員のローテーションで実施) 3. 保全カレンダー 4. 昼の照明 電源OFF・ONの自主的操作(2024年度より担当者の一覧表無しで試行する) 5. エアコン及びエアードライヤー簡易点検票 6. その他、諸届文書の保管・管理 ①発電設備・変電設備・蓄電池設備設置届 ②溶接・溶断作業届 ③特定設備設置届出書(設備の種類:走行クレーン)の受理書 ④産業廃棄物管理票交付等状況報告書(毎年6月県知事宛提出)⇒本年度は該当廃油は無し ⑤消防用設備(特殊消防設備等)点検結果報告書 ⑥高圧ガス 周知文書授受確認書 ⑦産業廃棄物管理票(事業系マニフェスト) ⑧産業廃棄物収集運搬業許可証(岐阜鉱油株式会社) ⑨産業廃棄物処分業許可証(住友大阪セメント株式会社) ⑩産業廃棄物処理委託標準契約書(岐阜鉱油株式会社)

10. 環境経営の見直し

- (1)C会議について、コロナ禍の為文書報告をまとめた回覧形式に変更する。結果は、深い実践報告になる。
- (2)その他の取組については、弊社の環境変化に応じた精選を継続していく。



Ⅲ.環境経営理念・環境経営方針

1. 環境経営理念

伊藤鉄工(株)は、経営理念である社会への貢献と従業員の成長を願い、金属などの切削加工業者として地球環境問題が地球上の人類と生命にとって最重要課題であることを認識し、環境負荷の継続的削減に努め、社会に貢献できる持続可能な企業活動を推進します。

2. 環境経営方針

継続的に環境負荷の削減を含めたコストの削減で、持続可能な企業活動を通じ課題を見つけ、その課題解決をチャンスと捉えた環境マネジメントシステムを構築し運用します。

そのために、以下の項目を全従業員は継続的に取組ます。

1. 電気・化石燃料のエネルギー使用量(二酸化炭素の排出量)の削減に努めます。
2. 生産活動において、作業の効率化、不良率の削減、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の徹底、3ム(ムリ・ムダ・ムラ)の排除などの取組で、コストの削減に努めます。
3. 廃棄物を分別し、再資源化に努めるとともに、排出量を削減します。
4. 節水に努め水の使用量を削減します。
5. 環境関連法規の遵守を含めたコンプライアンスの推進をします。
6. 企業価値を高めるために、教育、訓練、研修などで自己啓発し、全従業員は環境経営理念を周知徹底して環境保全活動に取組みをします。

制 定 日 2009(平成21)年 1月21日

最 終 改 訂 日 2023(令和 5)年 4月18日

伊藤鉄工株式会社

代表取締役 伊 藤 誠



IV.環境経営の運用

1. 環境経営の考え方(各取組に宿る願い)

アクション21に取組み15年が過ぎました。この間には、様々な取組が実施され、今思うとそれらの取組は、その時その時のEA21の取組環境から絞り出した取組である。その絞り出した取組の願いを見直すことが更なるスパイラルアップに繋がる願いを持ちつつこの項目を記述する。

1. 指標

削減成果の指標は、**総量管理**及び**原単位管理**の両方で実施する。

※従来は、総量単位が中心的位置づけであったが、2022年度の「代表者による全体評価と見直し・指示」により原単位管理を加えた位置づけにする。

2. 基準年度

以前は、日本の約束草案(2013年度)を基準年度にしていたが、基準年度と当該年度がかけ離れており社会情勢の変化は激しく、指標によるチェック精度が「悪くなる」と考えた。

従ってチェック精度を良くするために弊社は、中期計画期間の3年間を取組成果のチェック活動の中心に置くこととし、中期計画初年度から2年前の近い過去を基準年度にするのが適当と考えた。

これを原則として、中期計画ごとスローガン等見直しつつ、継続していきたい。

図示すると、右図のようになる。

3. 目標値比較が2種類の基準年度で行う場合が発生

本年度の場合、項目「1.環境負荷ごとの削減状況」表(P.〇〇)について見てみると、表は2023年度～2025年度の3年間のデータで比較してる。

すなわち、2023年度の基準年度は2019年度で、2024年度と2025年度の基準年度は、2022年度になる。右図の赤色矢印参照。

基本ルールは変更せず、色々な社会情勢の違いから、様々な物質の指標がどのように変化しているかも検証してゆきたい。

4. 目標値に対する判定

目標値に対しての判定(評価)は、有意差的な考え方を導入している。

弊社の有意差の社内基準は、目標値に対して**±5%以内**とする。すなわち5%以上は**削減無し**、5%以下は、**削減有**、その中間は**削減判定外**とする。

判定外とは、統計誤差を考えると、明確に判定できない状態を言う。

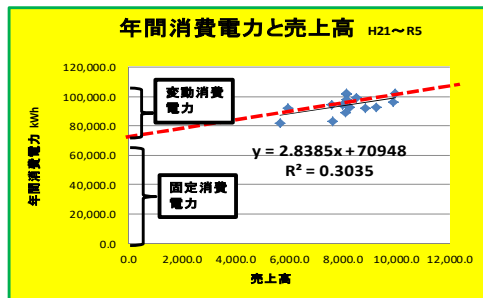
すなわち判定外とは、「達成出来ているとは言えない、又は、達成出来ていないとは言えない」状態を言う。

右下ブロック図の「削減判定と記号」を参照

5. 消費電力を削減可能部分(製造消費電力)と削減不可能部分(エアコンの消費電力)に分ける方式に変更

2024年度までの従来の考え方から2025年度の考え方の変更を記述する。

(1) 昨年度(2024年度)までの考え方



上図の「年間消費電力と売上高」集計グラフは、EA21を始めてから2023(R5)年度までの14年間の相関関係である。このグラフから、売上高に関係ない**固定消費電力**と、売上高と連動する**変動消費電力**の2つの存在を確信する。

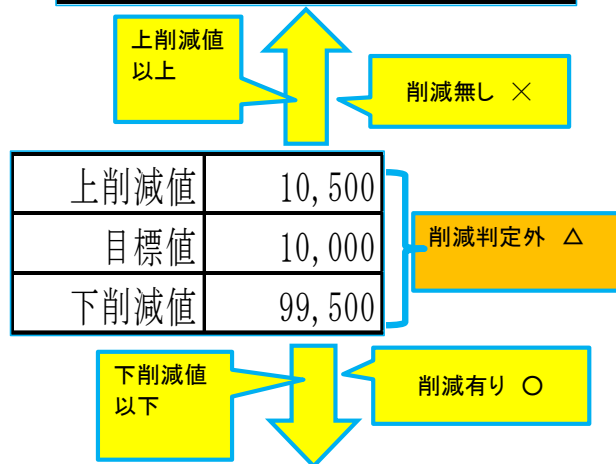
また、グラフから作業効率の指標として変動消費電力は、固定消費電力を除いた電力で特化していることで「素晴らしい指標」の発見だと確信し、追求してきた。すなわち、変動消費電力原単位(kWh/万円)の指標が作業効率の指標にドンピシャリであることの発見である。

取組の中で、なかなか上手くいかないときは、松下幸之助氏の名言である「**ダムを作ろうと強く思わないとあきませんのや**」の言葉を思い出しながら挑戦してきました。

ところが、変動消費電力の直接の計測が困難なため、統計的処理で昨年度のレポートで算出を試みましたが、すべてのデータについて、近似的処理が多く固定、変動消費電力値の信頼度が低いため、今日までの取組を見直し、変動消費電力原単位の算出は「でき無い」と決断をする。

年号 和暦(西暦)	削減目標値	基準年度
R1(2019)		基準年度
R2(2020)		
R3(2021)	目標はスローガンの1倍	
R4(2022)	目標はスローガンの2倍	基準年度
R5(2023)	目標はスローガンの3倍	
R6(2024)	目標はスローガンの1倍	
R7(2025)	目標はスローガンの2倍	基準年度
R8(2026)	目標はスローガンの3倍	
R9(2027)		
52.282		
R11(2029)		

削減判定と記号 (例) 目標値「10,000」に対する±5%とは?

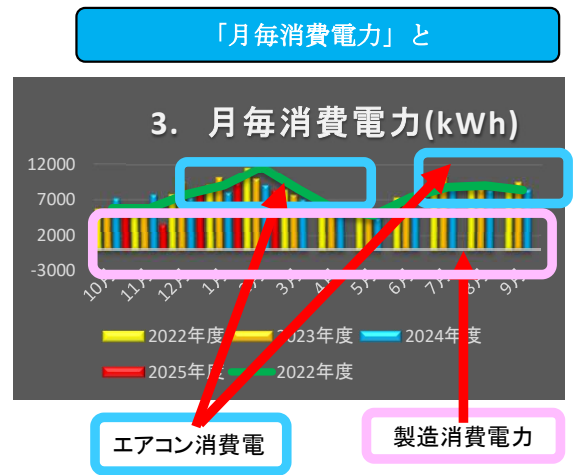


(2) 今年度(2025年度)からの考え方

【電力消費状態】
 月毎消費電力を見つめ直した結果、右図のようになることを発見する。このグラフから弊社の消費電力は、夏冬に多く春秋が少ないことが読み取れる。
 この変動は、弊社の場合**エアコン使用量の変化**であることが分かる。(右図参照)

【エアコン使用量の削減について】
 エアコンの電力使用量の削減を考えた時、次の2点について自問自答する。
 ①エアコンは、作業者の効率化を図る必要なものである。夏冬の暑さ寒さに耐えて電力消費を削減すべきものではない。
 ②外気温度に対してエアコンの使用量は変化する。例えば、地球の外気温度(地球の温暖化等)変化に対応してエアコンの電力使用量の削減は、技術力では困難である、

【消費電力の削減可否からの分類】
 消費電力の削減不可能な電力と削減可能な電力の2点に分類する。
 ①削減不可能な電力
 エアコン消費電力
 ②削減可能な電力
 生産活動で使用する消費電力であり名称を「**製造消費電力**」と名づける。以上のブロック図は右図「消費電力の内訳」参照)



消費電力の内訳

消費電力	
エアコン消費電力	製造消費電力

6. 環境負荷物質ごとの削減

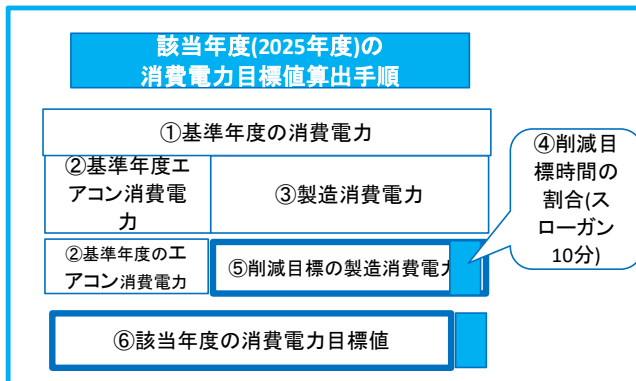
以下の環境負荷物質についてそれぞれ数年同じ土俵に上げて削減チェックをし、その後削減アクションを見つけていきたい。

(1) CO2排出量

CO2排出量の元物質は、電力(CO2排出係数: 0.459 kg-CO2/kWh)、化石燃料(CO2排出係数 ガソリン: 2.32 kg-CO2/L)、LPG(CO2排出係数: 3.00 kg-CO2/kWh)である。これらの3物質の合計重量から算出する。

(2) 電気使用量

基準年度から該当(2025年度)年度の消費電力目標値算出は、スローガン「1日10分作業時間を短縮しよう」から、右のブロック図と下記の手順で算出する。



- ①基準年度時の消費電力 =92,224kWh
- ②基準年度時のエアコン消費電力 =17,814kWh
- ③製造消費電力 ①-② =74,410kWh
- ④1日の実質作業時間(残業含む) に対して削減目標時間の割合 =1.96%
- ※スローガン(「1日10分作業時間を短縮しよう」)から算出)
- ⑤削減消費電力(スローガンより算出)削減目標の製造消費電力 =72,951kWh
- ⑥該当年度2025年度の消費電力目標値 =90,765kWh
- ※①~⑥の詳細は、P.〇〇の項目「7. 第6次中期計画の環境負荷ごとの自動計算抜粋と削減目標一覧表」を参照する。

(3) 製造消費電力

製造消費電力は、前項目5. 6で説明したように、算出する削減消費電力は、エアコンの消費電力からでなく、製造消費電力から削減する考え方で算出する。
 (該当年度の製造消費電力)=(該当年度の消費電力)-(該当年度のエアコン消費電力)から算出する、

(4) 車両走行距離

弊社は、各々の車両で燃費を考えるのではなく、全車両の走行距離を化石燃料消費量の指標にしている。その結果、車両ごとの燃費の向上はエコ運転以外、考えられることは①2社以上同時に納品・引取りの実施。②配達時の打合せで忘れ物が無いようにすること。③製品検査を徹底し不良品の引取り・再配達をしないこと等々で無駄な走行を無くす事である。ただし、狭い路地を通して走行距離を短縮する事で無く安全運転に務めることが安全第一が鉄則である、

この走行距離の削減目標値は、スローガン(1日の走行距離を〇.〇km削減しよう)より自動計算で算出できる。ただし、今年度の削減スローガンは、限界に達したと考え〇(ゼロ)kmlに於てである。すなわち、目標値は、基準年度値である。

(5) エアコン消費電力

先に記述したように、エアコンの消費電力の削減は考えないことにした。従って、目標値は、基準年度値になる。

(6) 再生金属屑

弊社は材料支給による切削加工が主であるため、金属屑(切粉)の削減には限界がある。従って、再生金属屑の削減は考えないため、目標値は、基準年度値にする。

また、弊社の場合は、材質の別で効率的に再利用が出来るため分別回収を推進している。
 データ処理として、廃棄のタイミングが一定間隔でなく半年に1回から数ヶ月で1回等一定してない。従って、前回廃棄した後の月(例えば1月廃棄)から廃棄した月(例えば6月)までの期間掛かって蓄積し廃棄したと考えると、1月~6月までの6ヶ月間かかって溜まったと考え、6月の廃棄した重量から6で割り、「月平均再生金属屑」としてデータ処理をしている。

(7)水溶性切削油の廃棄

弊社の水溶性切削油の廃棄は、加工機の切削油を交換する際に発生する廃油がすべてである。発生する廃油はドラム缶3本(200L×3本=600L)に一時保管して処理するため、廃棄量はゼロの年度もある。また、定期的に交換などシステム化していない。従って、水溶性切削油の廃棄量についても、再生金属屑廃棄量と同様に、「月平均値」方式にしている。削減目標値については、定期的な交換に至っていないため基準年度の実測値以下を目標にする。

(8)上水道使用量

弊社の水の消費は水溶性切削油と社員の生活排水であり、生産活動では水を使用していない。従って、生産に関係ない生活排水である手洗い、トイレなどの削減目標値設定は現実的でない判断し、削減目標は基準年度の実測値以下を目標にする。また、2ヶ月に1度の使用量の報告があるため、再生金属屑と同様に「月平均値」方式にしている。

(9)LPG使用量

弊社のLPGの消費は社員のお茶が主であり、生産活動ではLPGを使用していない。従って、削減目標値設定は現実的でない判断する。ただし、LPGによるCO2排出量は、僅かだがCO2排出量に加えている為、排出量の変化を見るため削減目標は基準年度の実測値以下を目標にする。

(10)その他

弊社は、金属加工業が専門で、エコアクション21のガイドラインに示された化学物質は取り扱っていない。又自らが生産・販売・提供している製品は、多くて年間1~2品目の為算入していない。近年は殆ど無い。従って、目標値等からは外してある。

7. 第6次中期計画の環境負荷ごとの自動計算抜粋と削減目標一覧表

上記項目「6. 環境負荷ごとの削減」について、「第6次中期計画の環境負荷ごとの削減目標一覧表」製作の自動計算の一部と一覧表を示す。

スローガンから中期計画期間(3年間)の削減目標算出表

[4]スローガンから削減値を算出する手順		基本データ、係数	基準年度2022年度売上高 万円 NO.1	8,851
			電力排出係数kg-CO2/kWh NO.7	0.459
			ガソリン排出係数kg-CO2/L NO.18	2.32
			LPG排出係数kg-CO2/m ³ NO.25	3.00
求 中 操 め 期 業 る 計 時 画 期 の 間 削	※丸番号(○番号)は、算出データの算出計算式を、両カッコ内は、データ倉庫番号又は初期設定データである。			
	①年間消費電力 kWh (3)	①式=①		92,224
	②年間エアコン消費電力 kWh (40)	②式=②		17,814
	③年間製造消費電力 kWh (44)	③式=①-②		74,410
	④消費電力削減スローガン(1日〇〇分削減しよう)分 (初期設定値)	④式=④		5
指 距 走 針 計 行 を 求 画 期 め 期 間 の 削 減 化 3 年 石 燃 料 の 間 の 削 減 目 標 目 標 走 行 距離	④中期計画期間の3年目の目標消費電力 kWh 2026年	④式=②×①		90,035
	⑤年間走行距離 km (48)	⑤式=⑤		28,472
	⑥1日の走行距離(年間稼働日数は、260日とする) km	⑥式=⑤/260		110
	⑦1日の削減走行距離 km	⑦式=⑦		0
	⑧1日の走行距離に対して削減距離の割合 %	⑧式=⑦/⑥		0.0000%
	⑨1年間の削減目標走行距離 km	⑨式=⑤×⑧		0
	⑩中期計画期間の1年目の目標年間走行距離 km 2024年	⑩式=⑤-⑨×1		28,472
	⑪中期計画期間の2年目の目標年間走行距離 km 2025年	⑪式=⑤-⑨×2		28,472
	⑫中期計画期間の3年目の目標年間走行距離 km 2026年	⑫式=⑤-⑨×3		28,472
	⑬年間ガソリン消費量 L (14)	⑬式=⑬		1,779
⑭1年間のガソリン削減目標 L	⑭式=⑬×⑧		0	
	【考え方】⑬の年間走行距離と⑬の年間ガソリン消費量とは比例する考え方			
⑮中期計画期間の1年目の目標年間ガソリン消費量 L 2024年	⑮式=⑬-⑭×1		1,779	
⑯中期計画期間の2年目の目標年間ガソリン消費量 L 2025年	⑯式=⑬-⑭×2		1,779	
⑰中期計画期間の3年目の目標年間ガソリン消費量 L 2026年	⑰式=⑬-⑭×3		1,779	
⑱年間消費電力の排出CO2量 kg-CO2	⑱式=電力排出係数(J37)×①		42,331	
⑲中期計画期間の1年目の目標消費電力のCO2排出量 kg-CO2 2024年	⑲式=電力排出係数(J37)×②		41,996	
⑳中期計画期間の2年目の目標消費電力のCO2排出量 kg-CO2 2025年	㉑式=電力排出係数(J37)×③		41,661	
㉑中期計画期間の3年目の目標消費電力のCO2排出量 kg-CO2 2026年	㉒式=電力排出係数(J37)×④		41,326	
㉒年間ガソリン消費量が排出するCO2量 kg-CO2	㉓式=ガソリン排出係数(J38)×⑬		4,127	
㉓中期計画期間の1年目の目標年間ガソリンのCO2排出量 kg-CO2 2024年	㉔式=ガソリン排出係数(J38)×⑮		4,127	
㉔中期計画期間の2年目の目標年間ガソリンのCO2排出量 kg-CO2 2025年	㉕式=ガソリン排出係数(J38)×⑯		4,127	
㉕中期計画期間の3年目の目標年間ガソリンのCO2排出量 kg-CO2 2026年	㉖式=ガソリン排出係数(J38)×⑰		4,127	
㉖LPG消費量m ³ (25)	㉖式=㉖		21	
㉗LPG年間CO2排出量 kg-CO3	㉗式=LPG排出係数(J49)×㉖		63	

[5]削減スローガンから基準年度からの年度ごとの削減目標

- スローガン1. 作業時間を残業含めて一日5分短縮する。
- スローガン2. 車の引取り、納品走行距離は、1日「ゼロ」km短縮する。

第6次中期計画の環境負荷項目ごとの削減目標一覧表

[3>1>26>2>6>>>>

項目	(1)CO2排出量 kg-CO2NO.36	(2)電気消費量 kWhNO.6	(3)製造消費電力 kWhNO.44	(4)車両走行距離 kmNO.48	(5)エアコン消費電力 kWh NO.40	(6)再生金属屑 kg NO.70	(7)水溶性切削油 廃棄量L NO.60	(8)上水道使用量 m ³ NO.78	(9)LPG使用量 m ³ NO.25
	CO2排出量原単位 kg-CO2/万円 NO.39	電気消費量原単位 kWh/万円 NO.6	製造消費電力原単位 kWh/万円 NO.47	車両走行距離原単位 km/万円 NO.57	エアコン消費電力原単位 kWh/万円 NO.43	再生金属屑原単位 kg/万円 NO.73	水溶性切削油廃棄量原単位 L/万円 NO.63	上水道使用量原単位 m ³ /万円 NO.81	LPG使用量原単位 m ³ /万円 NO.28
基準年度2022の排出量	総量単位 46,521	92,224	74,410	28,472	17,814	16,771	475.3	223	23
	原単位 5.26	10.42	8.41	3.22	2.01	1.89	0.0537	0.0252	0.00260
	削減率								
第6次中期計画初年度2024の目標値	総量単位 46,123	91,494	73,680	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率 0.86%	0.79%	0.98%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位 5.21	10.34	8.32	3.22	2.01	1.89	0.05	0.03	0.00

第6中期計画2年 目2025年度の 目標値	総量単位	45,788	90,785	72,951	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率	1.97%	1.58%	1.96%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
第6中期計画最 終年度2028年度 の目標値	総量単位	45,453	90,035	72,221	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率	2.29%	2.37%	2.94%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.17	10.25	8.24	3.22	2.01	1.89	0.05	0.03	0.00
	削減率	1.97%	1.58%	1.96%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.14	10.17	8.16	3.22	2.01	1.89	0.0537	0.0252	0.0026

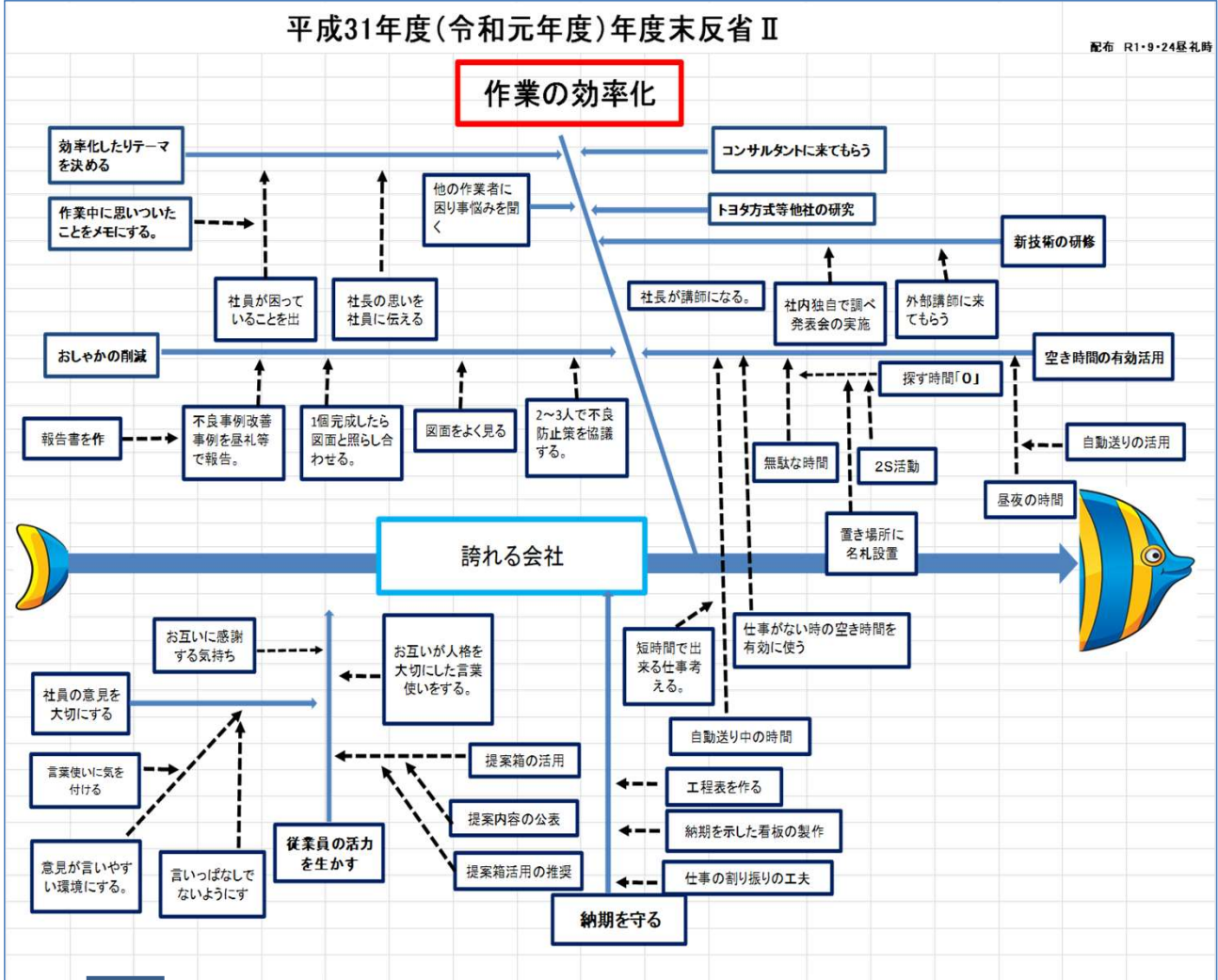
※項目「VII.環境経営の実績と評価」で、本年度と本年度の2年前までの削減目標値と実績値を棒グラフで見える化したものが、示してある。

8. 「報告書」の取組

(1) 報告書の発生経緯

2019(平成31)年度の弊社の年度末反省で、全社員に「誇れる会社」を特性にした「特性要因図(フィッシュボーン)」の提出をお願いし、まとめたものが下記である。

2019年度末反省をまとめた特性要因図



協議結果

記特性要因図を基に具体的な方策になるように協議を重ねた結果、次の2種類の報告書の製作に成る。

- ①不良対策報告書 ②改善提案報告書

だ、具体的な運用になると、不良対策報告書は始末書的な印象がある。また改善提案報告書はそれぞれの作業中に「ヨットした改善」をしつつ作業をしている。そのチョットした改善をいちいち記述し報告書にするのは手間である。不評であった。

協議結果導いた具体策2種類の報告書

2・13-伊藤鉄工庶務R6年度25.66811-一般庶務R7-エコアクション21110-37A7A7推進資料x25-社内報告書V1-不良対策-報告書V9-不良対策R6.4.4 【R6年度新>17>10>25>15>1>】		20 年 月 日
承認		20 年 月 日
2024年(R6)4月4日 改訂		
不良対策報告書		
目的	製品が様々な原因(例:加工不良、機械の故障、工程不良、材料不良、検査不良、打合せ不良、納品不良等々)で 完成が遅れた原因 を見つける。この原因から見てきた不良対策を蓄積し、それらを 共有 することで今後不良率の削減を目指し、結果 コストの削減、CO2の削減 を目指し、誇りある伊藤鉄工を目指す。	
記入方法	1. 内容をうまく伝えるため、図(手書き)、写真(撮影は依頼)、別紙も活用ください。また、他の作業者と重なる場合は、二重になってもらっても構いません。おのおの立場で不良対策を見つけ出したい。 2. 報告書の記入項目名が当てはまらない場合は、「空欄」または、「変更」または、「追加」して記入ください。 3. 報告は、小さな内容でもよろしいのでご報告ください。	
不具合の名称	発生日時	20 年 月 日
発生場所(機械等)	製品名と数量	記入者氏名
区分	下記の区分に相当する番号に○印をしてください。 ①加工不良 ②工程不良 ③図面不良 ④材料不良 ⑤検査不良 ⑥打合せ不良 ⑦納品間違い ⑧機械故障	
不具合の概要	その他(完成が遅れた理由:)	

2・13-伊藤鉄工庶務R5年度新Y1-一般庶務R7-エコアクション21V6-作業改善報告書V0-不良対策、改善提案様式V2.1-改善提案R5.9.14② 【R5年度新>17>7>6>2>1>②>>>>】		20 年 月 日
承認		20 年 月 日
改善提案報告書		
目的	実践した 作業改善・改善提案 また、提案でなくても作業で 困っている事、不合理な事、ちょっとした気づき も報告し、業務の改善に繋がり発生した効率化から、 安全作業、コスト削減、CO2削減 を目標とする。 また、それらをきっかけに社内の改善機運が高まることも期待します。	
記入方法	1. 内容をうまく伝えるため、図(手書き)、写真(撮影は依頼ください)、別紙をご活用ください。 2. 報告書の記入項目名が当てはまらない場合は、適宜名称変更して記入ください。 3. 報告書は、過去分も含めて気付いた時点でご報告ください。	
改部名称	記入者氏名	記載日 20 年 月 日
区分	下記の区分に該当する番号に○印をしてください。 ①安全衛生 ②整理整頓(2S) ③修理(リペア) ④改善(改善済み) ⑤改善提案 ⑥困っている事 ⑦不合理な事 ⑧気付いたこと ⑨その他誇りある企業への取組 ()	
対応	該当する対応状況に○印をしてください。 ①対応済み ②未対応 ③対応途中 ④対応追加	
状況	⑤その他()	

不具合の発生原因	1次要因 ↓
	2次要因 ↓
	3次要因 ↓
	4次要因 ↓
事後処置	
再発防止・改善提案	
標準案	不良対策用標準案



不良対策報告書が「始末書的でない報告書にしよう」等の議論の結果、不良になりかけて「不良を防止出来た取組報告書」にすることになった。

弊社の考え方として、①事故に対して「ヒヤッ」とした事で事故から逃れたことの報告書の記入と、②不良品に対して「ヒヤッ」としたことで不良品製作から逃れたことの報告書の記入する方式にすることに挑戦することになる。

以上の趣旨(目的)を記述した「ヒヤリハット報告書」が右図で示す。

また、この考え方は、弊社独自の考え方の報告書に成る。

改善の目的	
改善内容	
改善処理案	
その他	
標準案	改善活動が活性化する標準案

ヒヤリハット報告書報告書

20 年 月 日	
承認 年 月 日	
ヒヤリハット報告書	
目的	<p>「作中中は、様々な原因で「ヒヤッ」とすること、「ハット」することがある。例えば、①事故に直面しヒヤッとして、またハットとして事故から逃れられることがある。②作業不良では、ヒヤッとして、またハットとして不良品製作から逃れられることがある。当社は、この2項目についてお互いの体験を集計し、現場から「ヒヤリハット」を削減・安全で明るい職場づくり(ウエルビーイング:心身ともに健康に、満たされかつ幸福な状態)を目指して行くことを目標にしている。</p> <p>※2019年度年度末反省の取組である「従業員が誇れる会社」を頭にしたフィッシュボーンアンケートから継続している取組である。</p>
記入方法	<p>1. 内容が不明なため、図(写真等)、写真(撮影が困難な場合は別紙も活用下さい)。また、他の作業者と異なる場合は、一旦になってもよろしい。おのおの立場で「ヒヤッ」とすること、「ハット」とすることが減少し、無くなる取組を見つけ出したい。</p> <p>2. 報告書の記入項目が当てはまらない場合は、適宜追加・変更・無しでもよろしい。</p> <p>3. 報告は、ヒヤリハットに近い体験などもご報告ください。小さな内容、過去分でもよろしいので気付いた時点でご報告ください。</p>
ヒヤリハットの名称	発生日時 20 年 月 日
発生場所	製品名と数量
	記入者氏名
区分	下記の区分に相当する番号に○印をしてください。 1. 事故対策 2. 作業不良
不具合の概要	
ヒヤリハットの防止対策	第1案 第2案 第3案
【ヒヤリハットの法則】	ある工場で起こった5,000件以上の労働災害を調査し、その発生確率を分析しました。すると、1件の重大事故の裏には、29件の軽い事故と災害に至らない小さな事故、俗にいう「ヒヤリ」「ハット」する事例が300件ありました。別名「1:29:300の法則」とも呼ばれています。
標準案	ミス削減するための標準案

作中中は、様々な原因で「ヒヤッ」とすること、「ハット」することがある。例えば、

①事故に直面しヒヤッとして、またハットとして事故から逃れられることがある。

②作業不良では、ヒヤッとして、またハットとして不良品製作から逃れられることがある。

当社は、この2項目についてお互いの体験を集計し、現場から「ヒヤリハット」を削減し安全で明るい職場づくり(ウエルビーイング:心身ともに健康に、満たされかつ幸福な状態)を目指して行くことを目標にしている。

※2019年度年度末反省の取組である「従業員が誇れる会社」を頭にしたフィッシュボーンアンケートから継続している取組である。

(2) 報告書に宿る願い

従来の改善は、削減目標値に挑戦することやスローガンで挑戦すること等々は、個人々々の努力に任されておられ、環境保全活動が具体的に見えてこなかった。

今後は、この報告書方式によって、社内会議の議題にして皆で意見を出し社内改善の糸口にしていくこと(3人寄れば文殊の知恵)で、より良い具体的な取組を発見できることや具体的な取組が見える化になったことである。

社内会議で決まった標語を 社内に掲示



社員から出された報告書の掲示



更にメリットは、この改善報告書の取組蓄積が、**結果として何らかの環境保全(環境負荷の削減)**に自然に繋がっている事を信じている。

9. 「伊藤鉄工しぐさ」の取組

伊藤鉄工の企業理念の実践やEA21活動を深化させるためには、人間力の向上を目指す必要性から「江戸しぐさ」を2012(H24)年度より採り入れている。

以後継続した取組をし、その後弊社独自の「伊藤鉄工しぐさ」に挑戦しようとの意見から、2022年3月から実践してきた。

(1) 伊藤鉄工しぐさとは

江戸しぐさとは、江戸町民の「公衆マナー」でかつ「コミュニケーション・スキル」である。狭い江戸の町で「江戸っ子」といわれていた町民が使っていた世間との付き合い方や他人とのかかわり方などの所作全般を云う。

以上の考え方を継承し人間力の育成、SDGsの実践、ウェルビーイング（幸福感が感じられる社内環境）等々を目指した取組である。

(2) 取組理由・メリット

- ① 弊社の経営理念に「**人間的成長を図る**」ことが示されている。
- ② EA21活動を更に活動を深化させるためには「**人間力の向上**」を目指す必要性を感じている。
- ③ 「**ウェルビーイング**」を目指して、幸福感のある職業生活を送りたい。
- ④ 伊藤鉄工しぐさは、社員が順繰りに自作することから社内の底辺から「**人間力育成**」の修行になる。
- ⑤ 「**SDGs**」に繋がる取組である。

(3) 伊藤鉄工しぐさの取組

全従業員が順番に名言を創作し、その名言を3ヶ月間実践する。3か月経過後の「伊藤鉄工しぐさ更新会議」時に、全従業員が「**実践報告**」をし、各自が「**切磋琢磨**」していくシステムである。

ただ、近年はコロナ禍で伊藤鉄工しぐさ更新会議が持てなく、アンケート方式の文面による実践報告になる。この文面方式も、やむを得ずこの方式にしたが、社員さんにとっては、じっくり考えて記述出来るため良い結果が得られることになった。

(4) 過去の表彰コメントが活かされた喜び

環境省の環境人材育成コンソーシアム主催の第2回環境人づくり企業大賞2015において、テーマ『環境人間の育成を「江戸しぐさ」から学びオンリーワン企業を目指す』の題名で出したレポートが優秀賞を受賞。

色々なコメントの1つが、将来「**伊藤鉄工しぐさを目指す**」ことで高評価頂いたことが実現できほっとしている。

(5) 今日までの伊藤鉄工しぐさ

今日までに出された名言は、下記の様で、素晴らしい名言ばかりだと、自我自賛している。

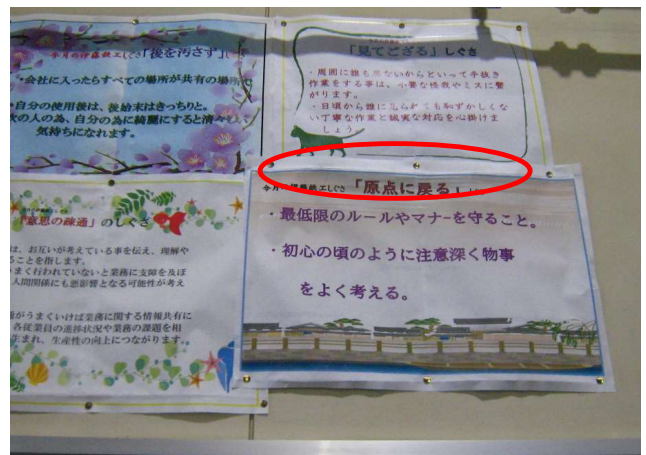
- ①段取りしぐさ ②ありがとしぐさ ③観る・聴く・考えるしぐさ ④指差呼称しぐさ⑤後を汚さず ⑥意思の疎通しぐさ ⑦見てござる ⑧原点に戻る ⑨思いやり助け合い ⑩自分の立場を知る。 以上

(6) 実践報告の一部

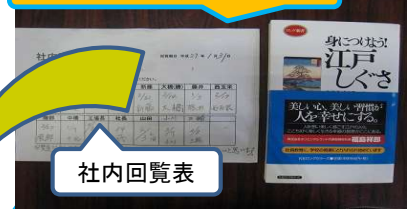
実践報告書のまとめの一部分

第20回 伊藤鉄工しぐさ更新会議 議題 --アンケート方式--	
伊藤鉄工務	
1. 日時:	2025年 R7 3月25日(月)
2. 場所:	屋礼 個人に配布。 提出期限 *4/4(金)まで
3. 協議事項	
(1) 実践報告テーマ	担当: 吉川 (R7.1月~R7、3月)
「原点に戻るしぐさ」	
<ul style="list-style-type: none"> ・最低限のルールやマナーは守ること。 ・初心の頃のように注意深く物事を考えてやる。 	
(2) 実践報告(記述・アンケート方式) 実践出来たこと・出来なかったことを記入して下さい。	
<ul style="list-style-type: none"> ・共有の工具を借りる時には毎回、札を置いてます。ちゃんと活用していきたい。 ・プログラムの工具番号と実際の工具番号や加工原点の確認をしっかりして加工不良の削減に努めています。 ・慣れている作業も改めて注意しながら見直し作業を進めました。共有の工具など使用したら、直ぐももに戻すなど気を付けました。 ・人や作業に関しても最低限のルールやマナー、初心の気持ちを忘れずに心掛ける出来ました。慣れて来て初心の頃を無くさないようにこれからも続けたい。 	

過去の伊藤鉄工しぐさの掲示

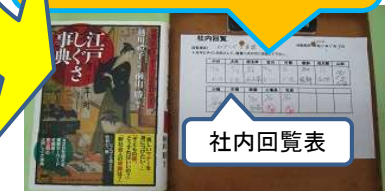


【江戸しぐさ選考資料】



社内回覧表

江戸しぐさから伊藤鉄工しぐさへ変更時に【江戸しぐさ辞典】を回覧し取組やすくする



社内回覧表

人づくり大賞の表彰状を中心に、私たちの思いは「江戸しぐさ」に宿る心を継続する決意写真

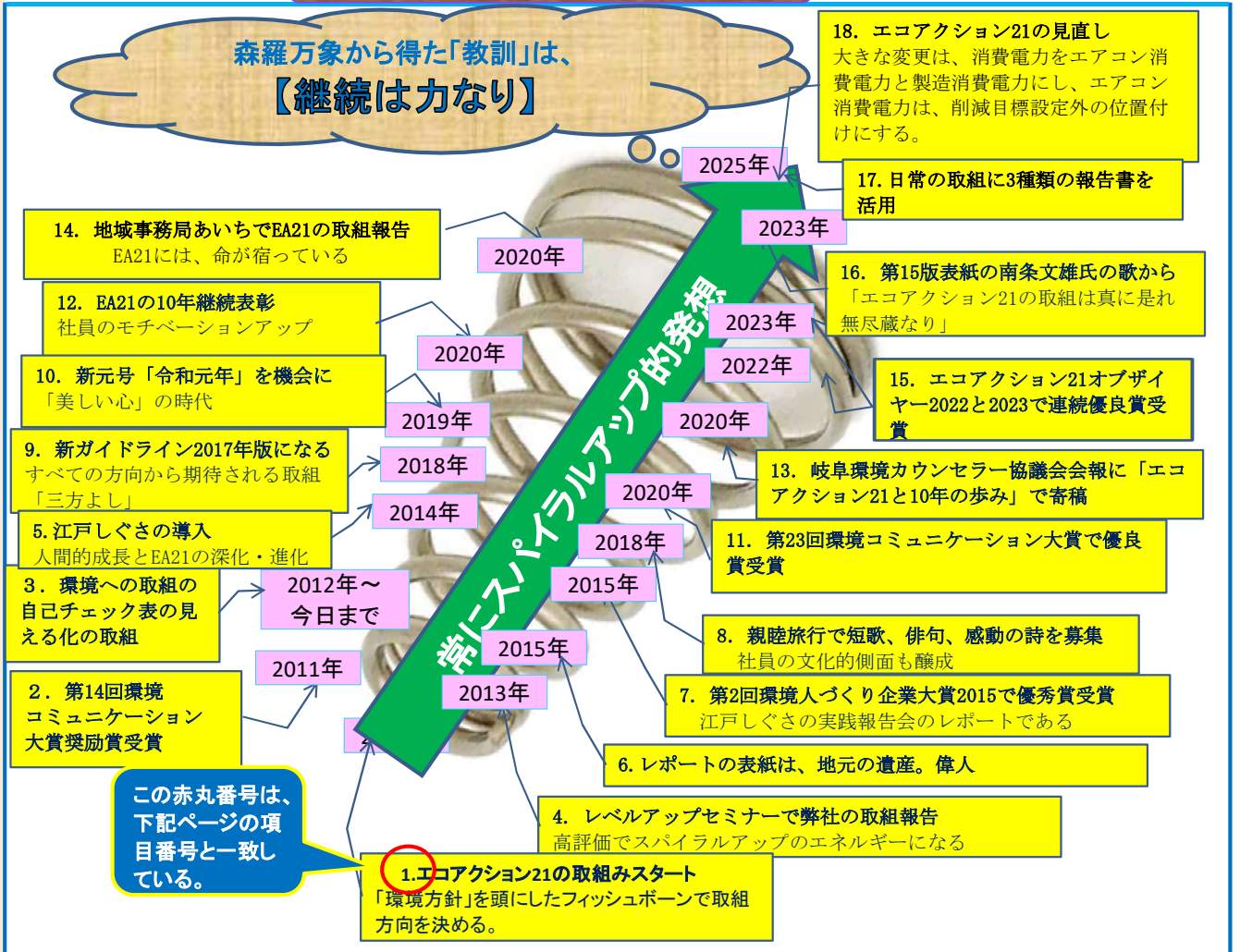


10. 弊社が考えるレベルアップ(スパイラルアップ)してきた歴史

今日までの森羅万象の取組から得られた教訓は「**継続は力なり**」である。それらの取組の一部ではあるが弊社が「深化・進化」してきた変曲点・歴史をイラスト的にまとめる。

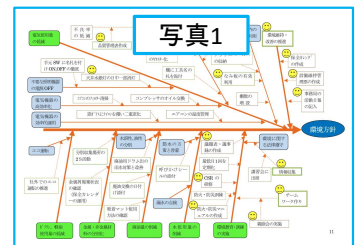
スパイラルアップのイラスト

森羅万象から得た「教訓」は、
【継続は力なり】



1. エコアクション21の取組みスタート

弊社は、2010年1月25日にEA21の認証を取得し、今後の取組について、「環境方針」を頭にしたフィッシュボーンで(右図:写真1)具体的な取組みをスタートする。この取組は、他社等からの推奨されることなく、純粋に「弊社の発展に繋がる」との思いがあった。この、純粋さの中に素晴らしいエネルギーが潜んでいた。



2. 第14回環境コミュニケーション大賞奨励賞受賞

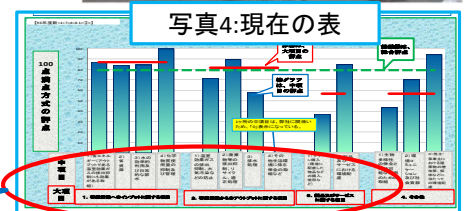
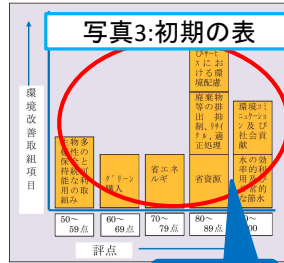
2011年度の環境活動レポート第2版で第14回環境コミュニケーション大賞の奨励賞受賞は、EA21の取組に対して強力な追い風になった。

その一つは、コメントに「フィッシュボーン」の活用に「いいね」を頂く。以後フィッシュボーンが**全社員課題解決ツール**になり、大きなスパイラルアップになる。また、様々な追い風を受け留めるべく決意の写真(写真2)を撮る。



3. 環境への取組の自己チェック表の見える化の取組

この自己チェック表は、初期段階の2012年から今日まで見える化を目指して改良してきた。まずチェック表は、弊社EA事務局員2名での自己評価を全社員の評価に改善した。その後、取組チェックがしやすいように、中項目ごとの粗点を100点満点方式にし、写真3の様に取組カテゴリを10点ごとのグループにして低い点数についてチェックをしていた。その後、改善を重ね写真4の様に中項目ごとに100点満点方式の点数にしてグラフ化する。



このグラフ化は、全社員に配布した項目ごと評価点を入力することで、写真4の表が出来るようにしてある。また、取組項目に新しく追加されてきている新取組(例えば:SDGs)についても追加することが可能である。

4. レベルアップセミナーでの報告会

2013年11月にエコアクション21地域事務局ぎふから、「レベルアップセミナーで弊社のEA21の取組報告をして欲しい」との依頼があった。まだ数年以下の取組ではあるが、現状をそのまま報告する。報告後事務局員様から心に響く高講評を頂き私達にとって、EA21の**スパイラルアップのエネルギー**になる。

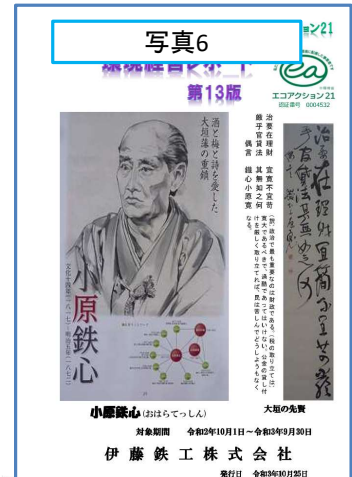
5. 江戸しぐさの導入

弊社の経営理念に「(2)ものづくりを通して社員の人的成長を図る」と言っているが、「社内活動で具体的な『人的成長』を目指す取組をしよう」との声でフィッシュボーンツールで決まったものが「江戸しぐさの実践」である。
更に、EA21の取組の深化・進化を目指す。

6. レポートの表紙は、地元の遺産・偉人

レポートの表紙は、地元の景観遺産、先賢偉人を記載し、遺産・偉人の素晴らしい願い、知恵を発掘し、人的成長のヒントを見つけ、結果EA21の深化・進化に繋げる。

写真5は、御首(みくび)神社で、写真6は、小原鉄心ある。



7. 第2回環境人づくり企業大賞2015で優秀賞受賞

EA21の深化、及び弊社の企業理念である「人的成長」の実践として、江戸しぐさの実践報告の取組で受賞。テーマは、「環境人間の育成を江戸しぐさから学びオンライン企業を目指して」である。

この表彰のポイントの一つは、今後「伊藤鉄工しぐさ」に挑戦することが評価されたと思っている。この伊藤鉄工しぐさの発想は、社員の子供さんの学校で「〇〇学校しぐさに取組んでいるよ」との情報からである。
私たちも是非継続したい願いをもって決意の写真(写真7)を撮る。



8. 親睦旅行で短歌、俳句、感動の詩を募集

EA21を取組み始めて早い段階で「見聞を広める」目的で親睦会を作り親睦旅行を実施している。この親睦旅行行事が更に人間力向上を目指すために考え着いたことが、短歌、俳句、むつかしければ川柳、詩を弊社のホームページで「各自各様に書きましょう」で書き「文化的側面」の醸成を願った。写真8は、琵琶湖パレー・テラスでの作品である。



9. 新ガイドライン2017年版になる

新ガイドラインを読み解くと、近江商人の経営理念である「売り手によし、買い手によし、世間によし」を示す「三方よし」が思い浮かぶ。

従来のガイドラインが地球環境保全のみであったが、新ガイドラインからは「本業に体力」をつける「社会からの信頼」を得ること及び「地球環境保全」を目標にしたことは、「三方よし」と同じ考え方である。
世の中の流れは、「正しい方向」に流れていることを確信した。

10. 新元号「令和元年」を機会に

新元号令和の時代になり、新しい生き方を考える機会を得る。こんにちまでの平成は、物があふれた時代で、これが「真に幸せか？」と聞いてみたとき、そうでないことに気付く。

従って、令和を幸せを感じる心豊かな「美しい心」時代にするべく、EA21の取組には出来る限りキーワードとして「美しい心」が挿入された取組を目指す。

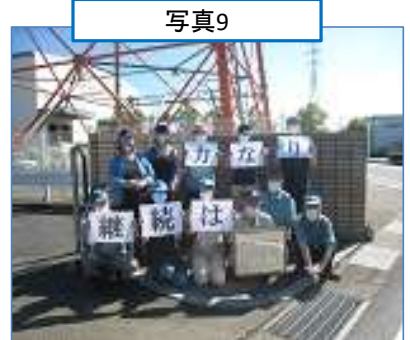
11. 第23回環境コミュニケーション大賞で優良賞受賞

表彰されたポイントは、令和を「美しい心」と読み人間力の育成に努めていることの応援メッセージであると弊社なりに理解する。

- 表彰状と従業員の決意写真を撮るプラカードの文言を協議した結果、
①一つ目が、美しい心を具体的に分かりやすい「感謝の心」の意見と
②二つ目が、今まで続けてきた蓄積の表彰であり、今後EA21の取組を皆で継続を誓う「継続は力なり」の意見がる。

結果は、②番の「継続は力なり」で集合写真を撮る。

「見えない力」をプラカードで「見える力」にして共通理解が出来る。弊社が表彰されたポイントは、講評で指摘されたように、令和を「美しい心」と読み人間力の育成に努めていることの応援メッセージであると理解する。



表彰状と従業員の決意写真を撮るプラカードの文言を協議した結果、

- ①一つ目が、美しい心を具体的に分かりやすい「感謝の心」の意見と
②二つ目が、今まで続けてきた蓄積の表彰であり、今後EA21の取組を皆で継続を誓う「継続は力なり」の意見が出る。

結局、②番の「継続は力なり」で集合写真(写真9)を撮る。

「見えない力」をプラカードで「見える力」にして共通理解が出来る。

12. EA21の10年継続表彰

環境省が策定したエコアクション21に長年(10年)取り組んだことで一般財団法人持続性推進機構エコアクション中央事務局より感謝状を受賞。

この受賞は、従業員のモチベーションの向上に繋がる。

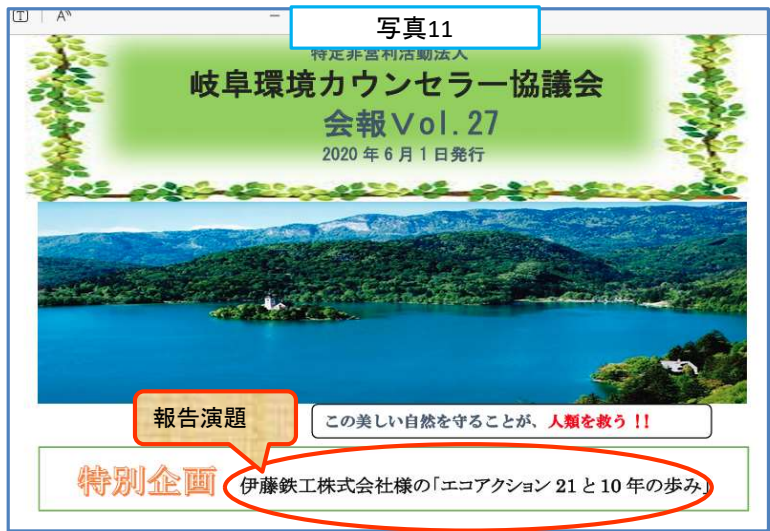
感謝状(写真10)は、昼礼で披露する。



13. 岐阜環境カウンセラー協議会会報に「エコアクション21と10年の歩み」で寄稿

この寄稿は、EA21地域事務局ぎふの皆様からの熱い応援を頂き特別企画号として発行が出来、更に私達はこれを執筆する中でEA21への取組姿勢が大きく深化した。

寄稿した岐阜環境カウンセラー協議会 会報VOR. 27の表紙の一部が右写真11である。



14. 地域事務局あいちでEA21の取組報告

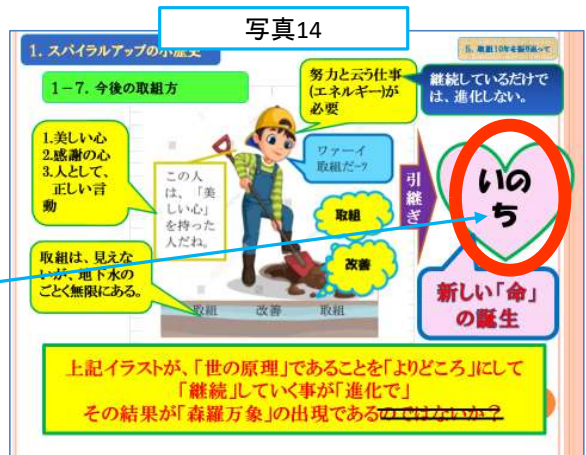
「EA21地域事務局あいち」より弊社のEA21の取組を報告して欲しいとの依頼を受ける。

写真12が報告風景である。



PPTを製作前段階のEA21取組レベルは、写真13の様に、EA21の取組は、美しい心で取組めば新取組・改善提案が「無限湧き出てくる」をまとめてしていた。

PPT完成後は、「EA21 そのものに命があるもの」として捉える考え方になり、大きな進歩だと考えている。



15. エコアクション21オブザイヤー 2022と2023で連続優良賞受賞

2022年度と2023年度の連続受賞は、エコアクション21の取組に対して、モチベーションアップに大変良い刺激である。

今日までのEA21の取組を見直しつつ「スパイラルアップと継続」をキーワードで取組んでいきたい。

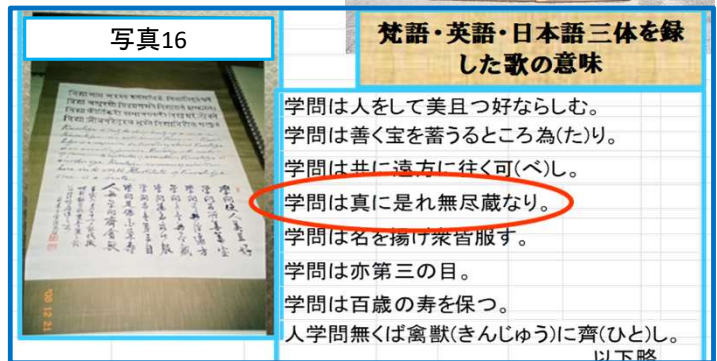
写真15は、エコアクション21オブザイヤー 2023の受賞集合写真である。



16. 第15版表紙の南条文雄氏の歌から

第15版の環境経営レポートの表紙に南条文雄先生の漢文詩「学問は真に是れ無尽蔵なり」を発見する。この詩は、弊社のエコアクション21の取組姿勢である「取組は、地下水のごとく無限にある」に対して、南条文雄先生は「学問は真に是れ無尽蔵なり」と云っている。

「学問」を「エコアクション21」に置き換えれば、「無限」と「無尽蔵」が一致している。故に、「エコアクション21の取組は真に是れ無尽蔵なり」である。これに感動し、弊社のEA21の取組を継続する大きな推進力になる。



17. 日常の取組に3種類の報告書を活用

詳細は、項目「1. 環境経営の考え方(各取組に宿る願い)>8. 「報告書」の取組」にあるように、本年度から①不良対策報告書 ②改善提案報告書 ③ヒヤリーハット報告書の運用で、「環境負荷の削減が着いてくる」考え方で取組んでいく発想である。

小さな取組ではありますが、個の取組を育てていき、スパイラルアップに繋がりたい。

18. エコアクション21の見直し

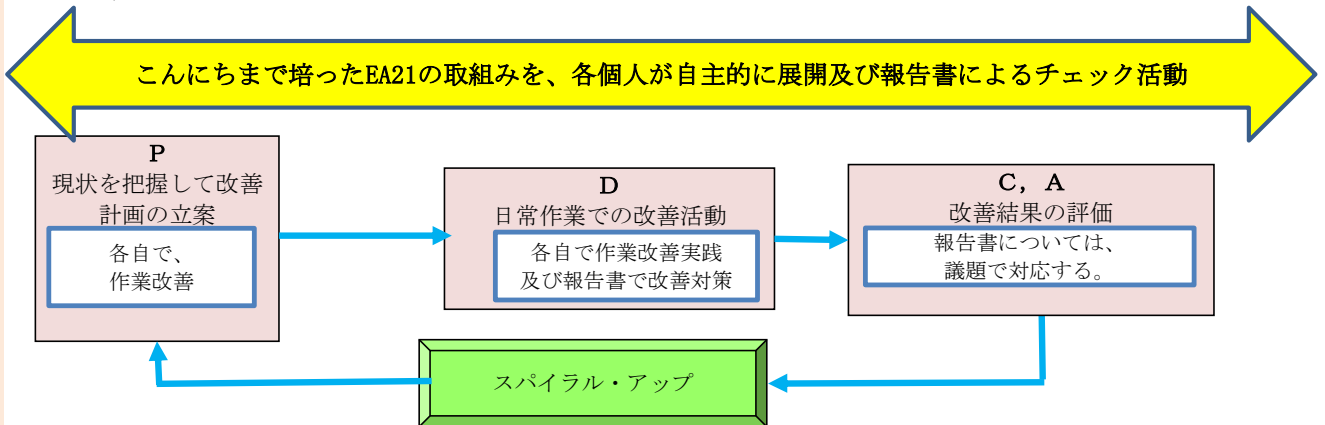
詳細は、項目「1. 環境経営の考え方(各取組に宿る願い)>6. 環境負荷の物質ごとの削減>(3) 製造消費電力」にあるように、本年度から消費電力を従来の①固定消費電力と②変動消費電力に分けて削減努力をしていた方法を本年度からは、①エアコン消費電力と製造消費電力に分けて削減していく方法に変更した。

改訂した消費電力の削減方法について、合理的な考え方であると捉え、定点観測結果をチェックしアクションを起こしCO2削減効果を上げ、スパイラルアップに繋がりたい

以上の取組の「宿る物語」から、私達の強い願いを読み取って頂ければ幸いです。

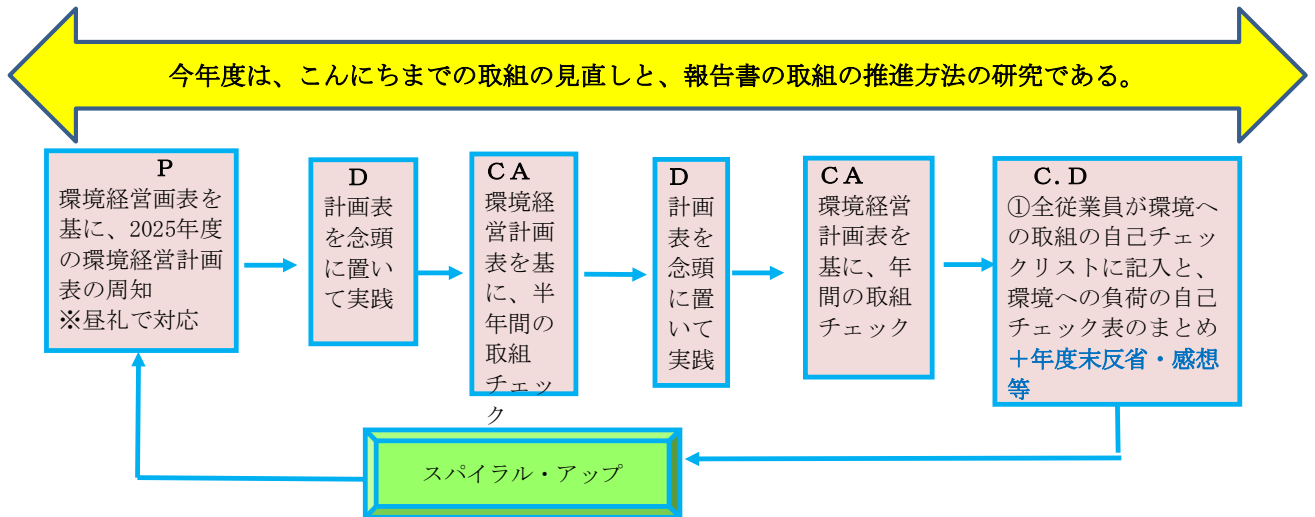
弊社の環境活動の取組み形態は、次の3種類のサイクルを回しつつ、EA21のスパイラルアップを目指している。

1. 日常のPDCAサイクル



2. 年度ごとのPDCAサイクル

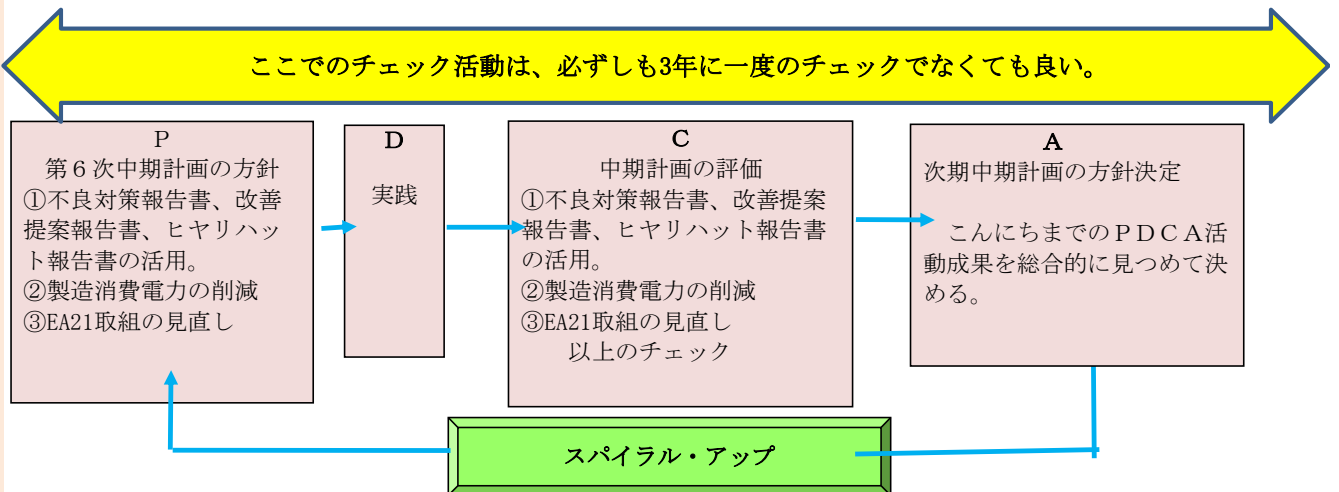
基本的には、「エコアクション21ガイドライン 2017年版」が示している、「①環境への負荷の自己チェック」と「②環境への取組の自己チェック」及び弊社独自の実践である「③年度末反省」でその他スローガンからの削減目標との検証。



(3) 中期計画ごとのPDCAサイクル

中期計画は、3種類の報告書（①不良対策報告書 ②改善提案報告書 ③ヒヤリハット報告書）や中期計画期間の目標値などの検証からCO2削減を目指していく。

3種類の報告書は、課題を全社員で協議し取組・対策を共有し実施することでCO2排出量の削減は自然に着いてくると考える。





V.今年度の環境経営計画と実践

本年度は、弊社の第6次中期計画の2年目に当たる。
弊社のEA21の取組みは、日常的な取組から特色ある取組などの報告する。

1. 日常的取組

日常的な取組は、下記表の様にシステム化し、取り組み内容については担当者を決めている。
それらの本年度の取組について、取組内容を記述した後の(矢印)⇒は3段階での自己評価であり、必要に応じて：の後にコメントを記述する。

経営目標	具体的な取組内容と評価	日程	担当者・部署
電 の 気 削 減 用 量	1. 省エネ活動		
	「昼の照明器具電源OFF点検表」の運用 ⇒3：当番制を外し社員の自主性	毎日	なし
	昼の天井照明のON、OFF操作 ⇒3：当番制を外し社員の自主性	毎日	なし
	照明器具、加工機、の清掃 ⇒3：仕事量が少なかった	適宜	工場長の指示と当番
	エアコン稼働時間の記録(電源のON、OFF)と集計 ⇒3	毎日と1回/月	エアコン操作者と集計係
	設備の管理(クレーンの日常点検)⇒3：R5年度より各種機械は個人管理に変更	毎日	無し
	効率的な設備の導入 ⇒0：設備導入無し	課題発生時	社長
化石燃料使用量の削減	2. 走行距離の削減		
	社内・社外(家庭含む)でのエコ運転推進 ⇒3	毎日	運転者
	社用車の走行距離、燃料給油量、空気圧等の記入・チェック ⇒3	引取納品時	引取納品者
	走行距離のデータ集計 ⇒3	月1回	集計担当
金属屑の再資源化	3. 材質別分別(金属屑)		
	廃棄場所の整理・整頓・清掃 ⇒3	毎日	全員
	材質別分別の徹底 ⇒3：R5年度の改善提案報告書で改善	切粉廃棄時	加工者
水溶性切削油の削減	4. 廃棄物(水溶性切削油)		
	改善点検表係で廃材・切粉置場及び周辺の清掃 ⇒3	月1回	全員
	油性と水溶性の分別の徹底 ⇒3	課題発生時	全従業員
水使用量の削減	5. 節水の方策と啓発活動		
	手洗い場の節水呼びかけシールによる取組 ⇒3	月1回	当番制
	節水コマの活用 ⇒3	毎日	全従業員
環境経営を全従業員に周知徹底し、取組む。	6. 環境経営に関する活動		
	改善点検表のチェックで廃油置場及び周辺の清掃 ⇒3	毎日	全従業員
	事務局による「環境への負荷の自己チェック表」への記入 ⇒3	年度末	EA事務局
	全社員による「環境への取組の自己チェック表」への記入 ⇒3	年度末	全従業員
	「エアコン、エアードライヤー簡易点検簿」による点検 ⇒3	3ヶ月毎	当番
	環境関連法規遵守状況のチェック ⇒3	年度末	副環境経営責任者
	防災訓練の取組 ⇒3：資料訓練	5月	全従業員
	「不良対策報告書」及び「作業改善報告書」の活用 ⇒1：2025年度から「ヒヤリーハット報告書」を新設し報告書を出しやすくする。	報告発生時	全従業員
	7. 環境経営に関する研修		
	安全対策の取組 ⇒3：特に怪我、事故無し	課題発生時	全従業員
定期的な会議(C会議、江戸しぐさ更新会議、昼礼) ⇒2：C会議の見直し	定期的	全従業員	
出張・研修の取組 ⇒0	課題発生時	全従業員	
①リデュースの推進(ゴミ減らし)②リユースの推進(再利用)③リサイクル推進(資源として再利用)④リフューズの推進(不要なものは買わない)⑤リペアの推進(修理して長く使う) ⇒3：修理が多い	適宜	全従業員	

9. その他環境経営に関する啓発活動			
パネルによる啓発 →1: 改訂が不十分その他ホームページの改訂もできていない	適宜	ハ・社係	
保全カレンダーの活用 →2: ほぼ活かされている	適宜	EA事務局	
清掃カレンダーの活用 →2: ほぼ活かされている	適宜	全従業員	
情報の共有化(「不良対策報告書・作業改善報告書・ヒヤリーハット報告書」等を昼礼等の会議で報告) →1: 報告書の活用方法の研究が必要	適宜	全従業員	
親睦行事 →3: コロナ禍で実施を見合わせていたが食事会を実施する	適宜	全従業員	
伊藤鉄工しぐさ →3	適宜	全従業員	
年度末反省、その他 →3	年度末	全従業員	

2. スローガンからの環境経営計画

1. 本年度(第6次中期計画(2024~2026年度)2年目)の削減目標値と削減率

弊社の削減量を定めるための基準年度は、中期計画初年度の2年前としている。それに従うと2022年度を基準にして中期計画3年間の目標値を算出している。

1. 電気消費量の削減目標スローガンは、年間「1日作業時間を5分間短縮しようである。」それに基づくと、中期計画2年目の本年度は、「1日作業時間を10分間短縮しよう」で自動計算した結果が、下記の表である。

この表は電気消費量以外の環境負荷物質については、基準年度値を目標値にしている。化石燃料に相当する走行距離の短縮は限界と感じ、目標値は基準年度値としている。

第6次中期計画初年度の削減目標値一覧

項目	CO2排出量 kg-CO2 kg-CO2/万円	電気消費量 kWh kWh/万円	走行距離 km km/万円	再生金属重量 kg kg/万円	廃棄物(水溶性廃油) L L/万円	水使用量 m ³ m ³ /万円	LPG使用量 m ³ m ³ /万円	社員数 人 人/万円	
目標値と削減率									
基準年度 2022年の排出量	総量単位	46,648	92,224	28,472	(16,771)	475	223	(21.0)	11.39
	原単位	5.270	10.419	3.21673	(1.895)	0.0537	0.0252	(0.00237)	0.335
第6次中期 計画初年度 2024年度の 目標値	総量単位	46,251	91,346	28,472	(16,771)	475.3	223.0	(21.00)	11.39
	削減率	0.85%	0.95%	0.0%	(0.0%)	0.0%	0.0%	(0.0%)	0.0%
	原単位	5.23	10.32	3.22	(1.89)	0.05	0.03	(0.00237)	0.335
	削減率	0.85%	0.95%	0.0%	(0.0%)	0.0%	0.0%	(0.0%)	0.0%

※1. スローガンに対応しているものとして、電気消費量とCO2排出量の削減目標値を示している。他の排出及び使用量については、基準年度値を目標値にした。特に再生金属重量については、支給材による加工、LPGについては生産活動で使用せず、社員のお茶が殆どなので、目標設定値としては、適切でないが参考値として()書きで基準年度値を記述した。なお、LPGについては、CO2排出量に算入している。

※2. 化学物質は、弊社では取り扱っていない。

※3. 社員数原単位は、パート社員の勤務時間がばらつきがあるため、1日8hを基準にした換算社員数(人工:人)である。基準年度値は、1日11.39人で年間勤務日数は260日である。

※4. エネオス電力排出係数は、2022年度の基準年度値で0.459(kg-CO2/kWh)である。

3. 環境への取組の自己チェック表

この環境への取組の自己チェック表は、弊社の環境への取組状況の把握のためのものである。そのために様々な取組として小項目が120項目程ある。これらの小項目を13種類の中項目にまとめ、更に4種類の大項目に分類してある。

それぞれの小取組毎に、重要度として「1~3点の入力」及び取組レベル「0~2」を全従業員にアンケート的に記入して頂く。

弊社は、取組状況を数的に把握するために、小項目毎に「素点」=全従業員の「平均重要度」×全従業員の「平均取組レベル」を算出し、粗点を100点満点方式にして弊社の取組レベルを判断している。

その為に、取組項目を11種類のカテゴリーに分類した中項目、4種類のカテゴリーに分類した大項目ごとに集計し、結果は、見える化した棒グラフまで自動で出力できる。その流れを次に示す。

1. 自動計算グラフ化の流れ

(1) 全従業員が自己チェック

右図が、全従業員に配布したアンケート用紙である。

全従業員は、右図の赤丸部分に
1) 重要度は、1~3
2) 取組レベルは、0~2
を記入する。

全社員に配布したアンケートチェック用紙

1. 事業活動へのインプットに関する項目					大項目結果	素点計 評点	
1) 省エネルギー（アウトプットである温室効果ガスの排出抑制にも効果がある取組）					中項目結果	素点計 評点	
①エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約							
チェック	具体的な取組内容				取組段階の目安 ①導入②発展③継続的發展	①重要度1~3を記入	②取組0~2を記入
1	事務室、工場などの照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯している				継続的發展		
1	ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなど、照明は普段は消灯し、使用時のみ点灯している				継続的發展		
1	パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定にしている				継続的發展		
1	夜間、休日は、パソコン、プリンターなどの主電源を切っている				発展		
0	エレベーターの使用を控え、階段を使用している				未設置		
1	空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底している				継続的發展		
1	使用していない部屋の空調を停止している				継続的發展		
1	プリントアウト機などの利用を減らしている				継続的發展		

全従業員に、重要度と取組を記入してもらう。

(2) 全従業員のデータ入力と同時に各項目の平均値表完成

全従業員のデータをエクセルシートに入力する。
入力する場所は、黄色地のセルに入力する。入力すれば、その右側で次のデータ処理をし、グラフ製作まで自動計算する。
※以下のデータは、すべて2025年度のデータである。

1) 重要度の平均

弊社の小取組毎の重要度の平均値(素点)を算出する。
※素点とは、小、中、大項目毎に点数を付けて、それらを集計したものが「素点」である。
その素点を集計して、中、大項目が満点の素点を100点として、各項目が何割の素点になっているかを表示したものを「評点」と呼ぶ。

2) 取組の平均

弊社の全従業員が認識している小項目毎の取組レベルの平均値である素点が算出する。

3) 重要度の偏差値

弊社の従業員間が小項目毎の重要度について認識誤差(バラツキ)がどの程度あるかを検証する指標にする。

4) 取組の偏差値

弊社の従業員間が小項目毎の取組レベルについて認識誤差(バラツキ)がどの程度あるかを検証する指標にする。

5) 重要度の偏差値が基準値以上

下記入力シートの場合、標準偏差値が「0.8」以上の小項目について「✓」が表示する。

6) 取組度の偏差値が基準値以上

下記入力シートの場合、取組レベルが「0.78」以上の小項目について「✓」が表示する。

全社員データ入力シート

小川	山田	吉川	佐久間	大宅	新藤	中橋	三輪	予備	重要度の平均	取組の平均	重要度の偏差値	取組の偏差値	重要度の偏差値が基準値以上	取組度の偏差値が基準値以上	
2	2	2	2	1	1	3	2	1	1	2	2	3	2	3	2
2	2	2	2	1	1	3	2	1	1	2	2	3	2	3	2
2	2	2	2	3	2	1	1	2	2	3	2	3	2	3	2
2	2	2	2	3	2	1	1	2	2	3	2	3	2	3	2
2	2	2	2	3	1	1	1	2	2	3	2	3	2	3	2
2	2	2	2	3	1	1	1	2	2	3	2	3	2	3	2
2	2	2	2	3	2	1	1	2	2	3	3	3	2	3	2
2	2	2	2	3	1	1	1	3	1	1	1	2	3	2	3
2	2	2	2	3	1	1	1	2	1	1	0	2	1	3	2

データ入力シート

データ入力後に各種自動計算され赤四角枠「各種指標一覧」完成

バラツキが大きい小取組に、✓が付く

(3) 弊社の全従業員の環境への取組自己チェック表

上記の「全社員データ入力シート」にデータ入力完了時点で各種指標一覧が完成する。そのデータが下図の「環境への取組の自己チェック表」に移される。

環境への取組の自己チェック表

①エネルギーの効率的利用及び日常的なエネルギーの節約							0.8	0.78		
チェック	具体的な取組内容	取組段階の目安 ①導入の発展②継続的発展	①重要度1～3を記入	②取組0～2を記入	③=①×②素点	④=①×②満点時の素点	重要度のバラツキ	取組のバラツキ	重要度のバラツキ大	取組のバラツキ大
1	事務室、工場などの照明は、昼休み、残業時など、不必要な時は消灯している	継続的発展	2.1	1.8	3.72	4.25	0.78	0.43	-	-
1	ロッカー室や倉庫、使用頻度が低いトイレなど、照明は普段は消灯し、使用時のみ点灯している	継続的発展	2.1	1.8	3.72	4.25	0.78	0.43	-	-
1	パソコン、コピー機などのOA機器は、省電力設定にしている	継続的発展	2.3	1.9	4.24	4.57	0.70	0.35	-	-
1	夜間、休日は、パソコン、プリンターなどの主電源を切っている	発展	2.3	1.7	3.92	4.57	0.70	0.45	-	-
0	エレベーターの使用を控え、階段を使用している	未設置	-	-	-	-	-	-	-	-
1	空調の適温化（冷房28℃程度、暖房20℃程度）を徹底している	継続的発展	2.5	1.9	4.69	5.00	0.71	0.33	-	-
1	使用していない部屋の空調を停止している	継続的発展	2.5	2.0	5.00	5.00	0.71	0.50	-	✓
1	ブラインドやカーテンの利用などにより、熱の出入りを調節している	発展	1.9	1.6	3.05	3.75	0.93	0.48	✓	✓
1	夏季における軽装（クールビズ）、冬季における重ね着（ウォームビズ）など服装の工夫をして、冷暖房の使用を抑えている	発展	2.0	1.3	2.50	4.00	0.71	0.06	✓	✓

環境への取組の自己チェック表に移されたデータ

(4) 小、中、大項目の自動集計

「環境への取組の自己チェック表」は、自動計算で、各種の指標を計算している。その自動計算の仕組みを下記の「説明文」と「環境への取組の自己チェック表」とで説明する。※説明文とチェック表の（ ）番号は、対応している。

- 1) 小項目毎弊社の社員が考えている重要度の平均
- 2) 小項目毎弊社の社員が考えている取組度合いの平均
- 3) 1)×2)で小項目毎の弊社の取組度合いの粗点(自己評価)
- 4) 1)×2(取組度合い2の満点)より、小項目が満点になる粗点
- 5) 小項目毎の重要度のバラツキ
- 6) 小項目毎の取組度のバラツキ
- 7) 小項目毎の重要度と取組度のバラツキ(偏差値)が基準設定値より大きい場合にチェック(✓)が付く
- 8) 大項目の重要度、取組度の基準値設定セル
- 9) 大項目の評点が100点になる場合の素点
- 10) 大項目の素点合計
- 11) 大項目の評点
- 12) 中項目の12)は、9)、10)、11)の大項目と同様、粗点と評点

		実践時		満点時	
		素点計	202.1	素点計	266.4
87.2 %		75.9	100	139.9	192.3
1) 事業活動へのインプットに関する項目 (大項目)		75.9	100	139.9	192.3
1) 省エネルギー（エアコンなどによる温室効果ガスの排出抑制にも効果がある取組） (中項目)		72.7	100	72.7	100

11) 実践時の素点を100点満点方式に変換。 $202.1 \div 266.4 = 75.8\%$

(5) 中項目、大項目及び総合の評点グラフ

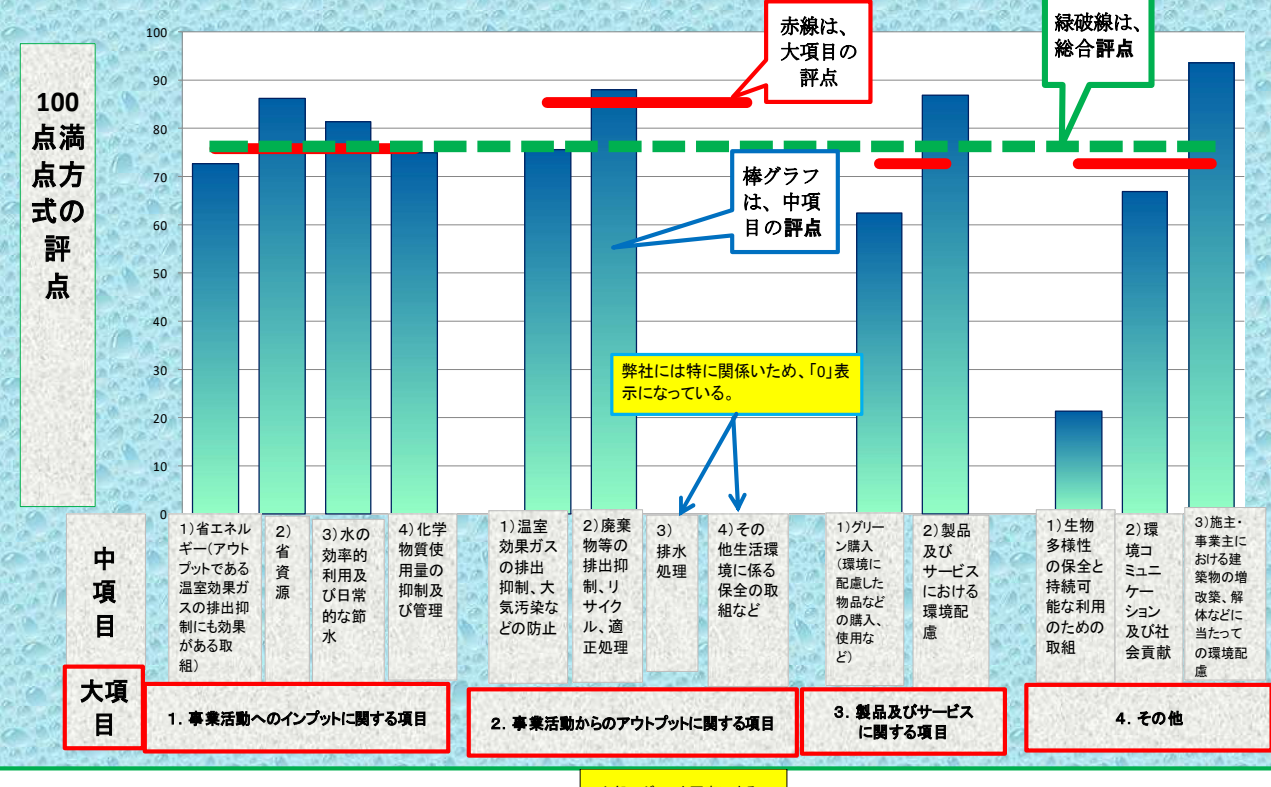
中項目は棒グラフで、大項目は赤色の折れ線グラフで、総合は緑色破線の折れ線グラフで、一目で弊社のEA21の取組状況が分かるように見える化してある。

下記グラフは、「環境への取組の自己チェック表」を集計し、結果が分かり易くしたグラフです。

2025年9月29日 全社員に配布

【1>25>2>2>3>】

2025年度 環境への取組の自己チェック表の、 「中項目,大項目,総合別100点満点方式の評点グラフ」

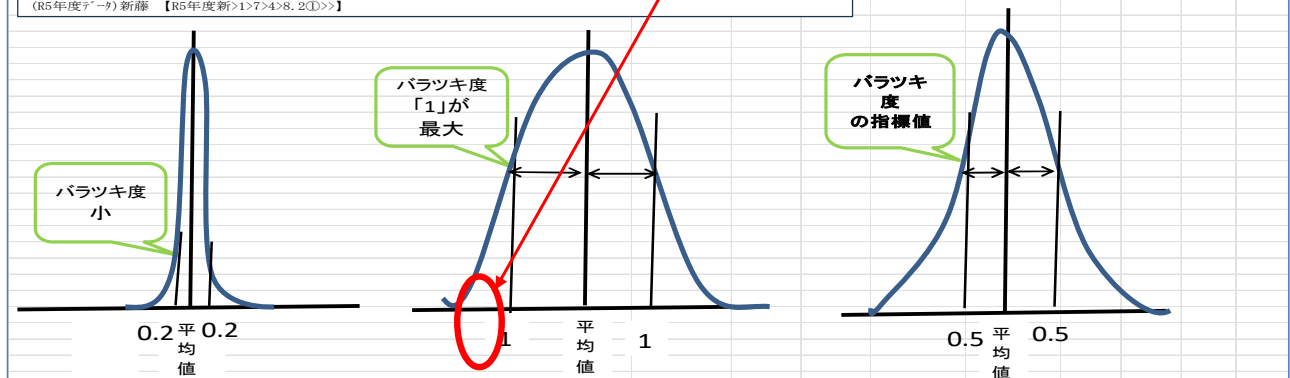


(6) バラツキ度について

バラツキ度を理解するために、下記のような説明資料が製作してある。

データ										平均	バラツキ度	データの状況
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	全データが揃っている時
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	全データが揃っている時
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	全データが揃っている時
2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2	1	バラツキが最大の時
3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	2	1	バラツキが最大の時
2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1.5	0.5	バラツキが半々の時(平均値)
3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2.5	0.5	バラツキが半々の時(平均値)
1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1.5	0.5	バラツキが半々の時(平均値)
2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2.5	0.5	バラツキが半々の時(平均値)
3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2.9	0.3	↑ ばらつき少ない ↓ ばらつき大きい
3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	2.8	0.6	
3	3	3	3	3	3	3	3	3	1	2.6	0.8	
										0.9165		
										0.9798		

D:\Y伊藤鉄工のみR5年度新Y1ー一般庶務Y7ーエコアクション21Y4ー審査提出資料Y8.2-R5 環境への取組の自己チェック表 (R5年度データ) 新藤 【R5年度新>1>7>4>8.2(D)>>】



(7) 「環境への取組の自己チェック」表の活用方法

1) 小項目の追加から分かる事

例えば、弊社独自の取組になる①不良対策報告書と②作業改善報告書と③ヒヤリーハット報告書の取組について、社内全員の認識度合いをこの「取組の自己チェック表」の取組内容に挿入することで下記の要領で知ることが出来る。

6種類の報告書のみの評点=(素点合計：17.3÷(満点時の素点合計：24.6)×100=70.32≒70.3点である。

従って、この6種類の小項目は80点以下で成果は上がっていない。

この例のように、今後も小項目に知りたい取組項目を挿入し成果を知ることでスパイラルアップを続けていきたい。

		大項目結果	素点計	実践時	満点時					
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目				93.2	109.0					
			評点	85.5	100					
1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染などの防止				実践時	満点時					
		中項目結果	素点計	16.06	22.29					
			評点	75	100					
① 温室効果ガスの排出抑制										
チェック	具体的な取組内容	取組設備の1台の導入の継続的發展	①重要度1～3を記入	②取組0～2を記入	③=①×②素点	④=①×②満点時の素点	重要度のバラツキ	取組のバラツキ	重要度のバラツキ大	取組のバラツキ大
0	都市ガスなどの環境負荷の少ない燃料を優先的に購入、使用している	未設置			-	-	-	-	-	-
1	自社の車両の運転におけるムダな燃料使用をさけるため、ドライブレコーダーなどを導入し、車両の運転における燃料効率の改善を図っている【省エネ運転の励行】 製品購入の際には、できるだけHFC（ハイドロフルオロカーボン）、PFC（パーフルオ	継続的發展	2.7	1.9	5.0	5.4	0.5	0.3	-	-
0	カーボン・フットプリントに取組んでいる商品への購入は使用している	未導入			-	-	-	-	-	-
0	社用車について、ハイブリッド車や低燃費車、低排出ガス認定車、電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車への切替へに取組んでいる	未導入			-	-	-	-	-	-
1	「不良対策報告書」の活用を取組んでいる	導入	2.3	1.6	3.6	4.6	0.5	0.5	✓	-
1	「不良対策報告書」の活用が成果が上がっているか？	導入	2.0	1.3	2.6	4.0	0.8	0.5	-	-
1	「作業改善報告書」を取組んでいる	導入	2.3	1.3	3.3	4.6	0.9	0.5	✓	-
1	「作業改善報告書」を取組んだ成果が上がっているか？	導入	1.9	1.3	2.4	3.7	0.6	0.5	-	-
1	「ヒヤリーハット報告書」を取組んでいる	導入	2.0	1.6	3.1	4.0	0.8	0.5	-	-
1	「ヒヤリーハット報告書」を取組んだ成果が上がっているか？	導入	1.9	1.3	2.4	3.7	0.8	0.5	-	-
↑ 関連する取組についてのみ「1」を入力してください。			合計		17.3	24.6				

素点合計:17.3

満点時の素点合計:24.6

2) グラフから分かる事

グラフから分かる取組評点が低い3項目の中項目は、1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組の21.4点、1) グリーン購入の62.5点、2) 環境コミュニケーション及び社会貢献の67.0点です。

この中項目の3項目は、零細企業にとっては、キャッシュフローを考えると、なかなか難しい課題である。ただ、私達は物を大切に、地球を大切に作る姿勢を常に持ち日々生活をしていきたい。

(8) 「環境への取組の自己チェック表」から自動作成グラフ化までとり着いた経緯(物語)

1) 環境への取組の自己チェック表の記入

初期の段階のチェック表は、EA21担当者2人が記入していた。

2) 環境への取組の自己チェック表の記入を全社員が実施

チェック表への記入は、EA21担当者2人でしていたが、弊社の取組レベルの自己評価である為、全社員が記入し、重要度と取組レベルは、**全社員の平均値**とする。にする。

3) 環境への取組の自己チェック表の結果を評点化

チェック表の集計値は、重要度と取組レベル値であるため、素点である。この表の目的は、私達のEA21の取組レベルを自己チェックすることである。そのことを実現するために、レベルが感覚的に捉えやすい100点満点方式で **評価点** が分かる方式を併用する事を考えた。

4) 環境への取組の自己チェック表の重要度と取組レベル値のバラツキ度の表示

自己チェック表の記入値が個人個人でばらつきがあることに気付く。従って、社内の認識の一致度の指標として、標準偏差値で**バラツキ度**とする。このバラツキ度に対して、設定バラツキ度より大きい小項目については「**✓** チェック記号

5) 環境への取組の自己チェック結果の見える化で、積み上げ方式(取組結果グラフ1参照)

自己チェック表の中・大項目及び総合得点が数ページの自己チェック表の中でバラバラで記入されており見にくい。それを1ヶ所にまとめる方策を思考する。
結果、評点毎に中項目を**積み上げる**。この積み上げは、手動で製作になる。(取組結果グラフ1参照)

6) 環境への取組の自己チェック結果の見える化で、棒グラフ方式(取組結果グラフ2参照)

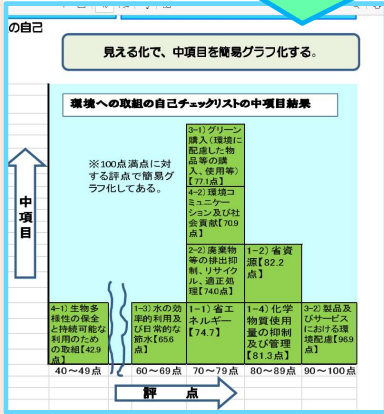
中項目の評点を棒グラフ化し、全自動で作成する。

7) 環境への取組の自己チェック結果の見える化で、棒グラフと折れ線グラフ方式を採用(取組結果グラフ3参照)

大項目と総合の平均評点を折れ線グラフ化し、全自動で作成する。

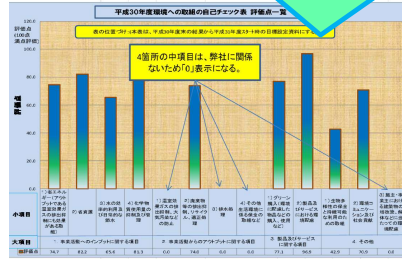
取組結果グラフ 1

評点を10点ごとに区切り、区切った場所に中項目を積み上げる方式。



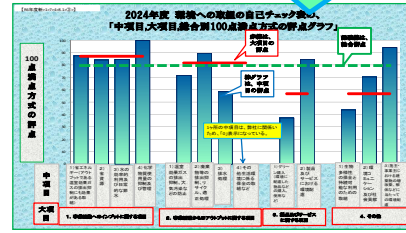
取組結果グラフ 2

中項目を横軸に記述し、中項目記述した場所に中項目の評点を棒グラフで示す。



取組結果グラフ 3

中項目の評点の棒グラフに、大項目毎と総合得点の評点平均を折れ線グラフで示す。(現在の方式)



4. 伊藤鉄工しぐさ更新会議

18ページ項目「(3)伊藤鉄工しぐさへの期待」の項目でどのような取組かは記述しました。ここでは、具体的に伊藤鉄工しぐさの狙い、宿っている願いが実現されている部分の報告をする。

下記が「見てござる」しぐさの実践報告のまとめである。その中の全ての社員がキーワードで「神仏」的に捉えた願い、祈りを記述している。

結果、伊藤鉄工しぐさの提案者及び従業員の間人向上に繋がっていると思っている。

伊藤鉄工しぐさ「見てござる」しぐさの実践報告

第19回 伊藤鉄工しぐさ更新会議 議題
--アンケート方式--

伊藤鉄工(株)

- 1. 日時： 2024年 R 6 12月20日(金)
- 2. 場所： 個人に配布。 提出期限 *12/27 (金) まで
- 3. 協議事項
- (1) 実践報告テーマ 担当：佐久間 (R 6.10月~R 6、12月)

「見てござる」しぐさ

・周囲に誰も居ないからと言って手抜き作業をする事は不要なケガやミスに繋がります。日頃から誰に見られていても恥ずかしくない丁寧な作業と誠実な対応を心掛けましょう。

(2) 実践報告(記述・アンケート方式) 実践出来たこと・出来なかったことを記入して下さい。

【実践報告記入欄】

- ・一つ一つの作業を確認しながらミスのないよう心掛けて取り組むようにしました。機械加工、クレーン操作等についてふとしたことで事故に繋がったりするので安全面も考え行動しました。常に心掛けたいと思います。
- ・仕事中は、常に人が居ても居なくても、手抜きをすることなく、いつもどおりに丁寧な仕事を心掛け行いました。
- ・図面に記載されている寸法は全て計測しています。数物も全て計測しています。事務所側からの質問もきちんとした対応が出来たと思います。
- ・手抜き作業を「他人に(人に常に)見てござる」との思いで常に作業をすることで今日までの作業を「手抜きせず気持ち良く出来る心になりました。
- ・社内の共有物、共有場所等の清掃について
定期的な清掃又は手の空いた時間に行う清掃と色々行う場合に次の人が気持ち良く使用出来る事を心掛け実践することが出来たと思います。
- ・会社では、手を抜くことなく普段どおり作業することが出来ました。継続していきたいです。家では、これくらいだと思うこともこれからは家でも気をつけたい。
- ・常に丁寧な作業を心掛けて完璧な加工が出来たと思う。
- ・仕事が混んでいる時にどちらが先にいるかを指示してほしい。図面に寸法漏れがない様にしてほしい。
- ・仕事が混んでくるとミスをしたり自分が勝手に「これくらいで」と判断してしまうこともあるので常にきちんとした仕事をするように心掛ける。

配布者：社長・小川・打屋・吉川・山田・大宅・佐久間・新藤・中橋・三輪 11名

5. C会議

C会議は、四半期ごとに取組成果のチェック活動で、PDCAのCを冠した会議である。昨年と同様に新型コロナ禍のため初回のみ実施する。

1. 初回のC会議の資料と目的

第1回C会議は、下記図の様な「環境経営計画」表をA3紙資料を配布している。協議内容は、本年度のEA21の取組案の説明である。特に、本年度の目標値は第6次中期計画2年目になる。

目標値や取組方針等を、下記資料を基に昼礼で説明する。

【説明のポイント】

- 消費電力の削減スローガンは、基準年度より1日の操業時間を10分短縮しよう。
- 化石燃料は、納品・引取走行距離の短縮は無し。
- 不良対策報告書、作業改善報告書、ヒヤリーハット報告書の活用

この考え方は、上記3点の報告書の活用により、①環境保全が自然に着いてくると言う考え方と、

②課題に対して全員で議論し合うため良い方向になる狙いがあることを強調した。

- 数値目標は、下記表「環境経営計画表の一部」の水色四角枠である。

環境経営計画表の一部

A3横書き資料の一部

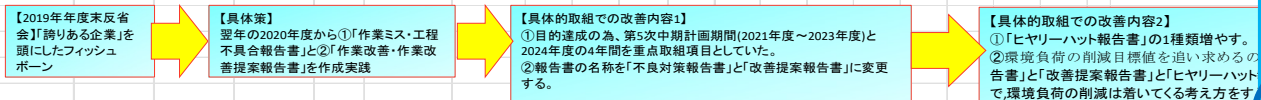
2025(令和7)年度 環境経営計画と実施報告

【R6年度ファイルのアドレス】Z-V3-伊藤鉄工産務V6年度V1-一般庶務V7-エコアクション21V4-審査提出資料V11.1-R6 環境経営計画

【R7年度ファイルのアドレス】Z-V3-伊藤鉄工産務V1-カテゴリ別V23-データ倉庫1(環境計画、C会議、V2-データ倉庫1と環境経営計画、C会議)NO.23本ファイルV14-R7 データ倉庫1(環

【R7年度ファイルのアドレス】Z-V3-伊藤鉄工産務V1-カテゴリ別V23-新旧データ倉庫1(データの流れ、環境計画、C会議、相談図)V2-新データ倉庫R7.4.22~V5-R7 新データ倉庫元「15-R7 データ倉庫1(環境経営計画・C会議

【1】今年度までの取組



【2】今年度の新取組：製造消費電力の導入

1. 製造消費電力導入前の電気使用量の削減
売上高に対する消費電力の散布図より回帰線式を求めると、売上高に比例しない固定電力と売上高に比例する変動消費電力の存在を確認していた。このことから、特に回帰線式の勾配の単位は、kWh/円であり変動消費電力原単位と同じである。その結果、私達従業員の作業効率の指標にしていた。

2. 製造消費電力導入後の電気使用量の削減
昨年度までの消費電力の削減状況を見直すと、エアコンの消費電力も削減対象になっている。このエアコン消費電力の削減取組を考えると、地球温暖化にどうい。また、具体的にエアコン使用量を減らすことは、暑さ寒さを我慢することになり不合理であると考えた。結果、私たちは、エアコン消費電力の削減は、基準年度値を目標にしての削減は、0%にし、消費電力の削減は、製造消費電力の削減で取組むことにする。

【3】今年度の環境負荷項目ごとの削減目標

- 基準年度 2022年度とする。本年度は「第6次中期計画2年目」である。また、基準年度は、「各中期計画初年度の2年前」とするルールである。
- 消費電力削減目標 本年度は、基準年度比で1.58%削減 <スローガン> --- 本年度末までに、基準年度比で1日の作業時間を10分短縮する --- (第6次中期計画の3年間)
- 化石燃料削減目標 本年度特に無し。従って、基準年度値以下が削減目標値
- 化石燃料、水溶性廃棄物、再生金属屑、水使用量、LPG使用量削減目標は、基準年度以下
- 負荷の自己チェック表にある「化学物質」について、弊社では取り扱っていません。従って、削減項目にはありません。

第6次中期計画の環境負荷項目ごとの削減目標一覧表

項目		(1)CO2排出量	(2)電気消費量	(3)製造消費電力	(4)車両走行距離	(5)エアコン消費電力	(6)再生金属屑	(7)水油廃棄物
		kg-CO2NO.36	kWhNO.3	力kWhNO.44	kmNO.48	電力kWhNO.40	kgNO.70	NO.49
目標値と削減率		CO2排出量原単位kg-CO2/万円NO.39	電気消費量原単位kWh/万円NO.6	製造消費電力原単位kWh/万円NO.47	車両走行距離原単位km/万円NO.51	エアコン消費電力原単位kWh/万円NO.43	再生金属屑原単位kg/万円NO.73	水油廃棄物原単位kg/万円NO.49
基準年度2022の排出量	総量単位	46,521	92,224	74,410	28,472	17,814	16,771	
	原単位	5.26	10.42	8.41	3.22	2.01	1.89	
	削減率							
第6次中期計画初年度2024の目標値	総量単位	46,123	91,494	73,680	28,472	17,814	16,771	
	削減率	0.86%	0.79%	0.98%	0.00%	0.00%	0.00%	
	原単位	5.21	10.34	8.32	3.22	2.01	1.89	
第6次中期計画2年目2025年度の目標値	総量単位	45,788	90,765	72,951	28,472	17,814	16,771	
	削減率	1.57%	1.58%	1.96%	0.00%	0.00%	0.00%	
	原単位	5.17	10.25	8.24	3.22	2.01	1.89	
第6次中期計画最終年度2026年度の目標値	総量単位	45,453	90,035	72,221	28,472	17,814	16,771	
	削減率	2.29%	2.37%	2.94%	0.00%	0.00%	0.00%	
	原単位	5.14	10.17	8.16	3.22	2.01	1.89	

2. 2025年度のC会議資料

年四半期ごと(年4回)のC会議が、こまめにやってもなかなか意見が出ないため半期ごと(年2回)に変更しました。ところが消費電力の考え方が年度途中から変更しました。それは、製造消費電力を採用した為です。その結果、前記した「2025(令和7)年度環境経営計画と実施報告書」を年度始めに内容案を呈示することで今年度は終わりました。

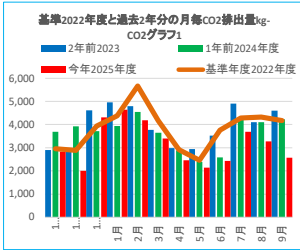
ただ、下記の「各環境負荷物質の月毎排出量グラフ」の有効活用を今後の課題にしたい。

各種環境負荷物質の月毎排出量グラフ

(1) 二酸化炭素(CO2)排出量

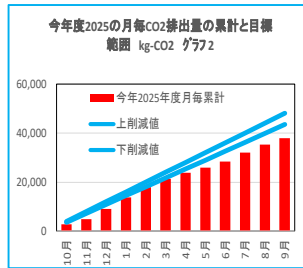
グラフ1

基準2022年度と過去2年分の月毎CO2排出量



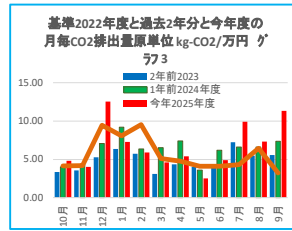
グラフ2

本年2024年度月毎CO2排出量の累計と目標範囲



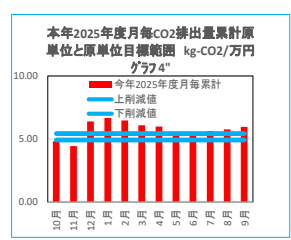
グラフ3

基準2022年度と過去2年分の月毎CO2排出量原単位



グラフ4

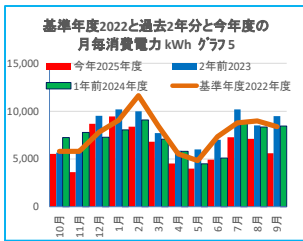
本年2023年度月毎CO2排出量累計の原単位と目標範囲



(2) 電気使用量

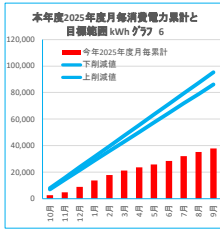
グラフ5

基準2022年度と過去2年分の月毎電気使用量



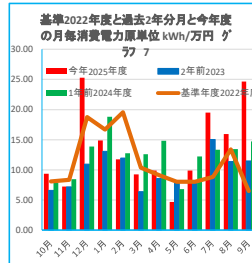
グラフ6

本年2025年度月毎電気使用量の累計と目標範囲



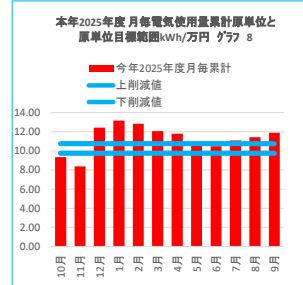
グラフ7

基準2022年度と過去2年分の月毎電気使用量原単位



グラフ8

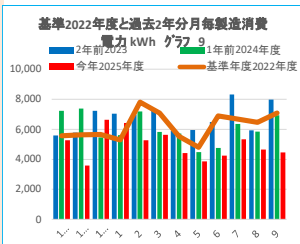
本年2025年度月毎電気使用量累計の原単位と目標範囲



(3) 製造消費電力

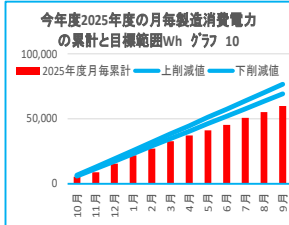
グラフ9

基準2022年度と過去2年分の月毎製造消費電力



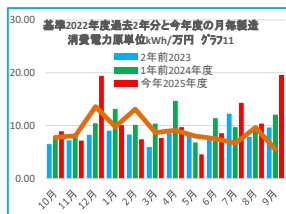
グラフ10

本年2025年度月毎製造消費電力の累計と目標範囲



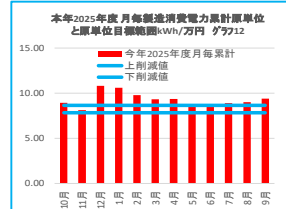
グラフ11

基準2022年度と過去2年分の月毎製造消費電力原単位



グラフ12

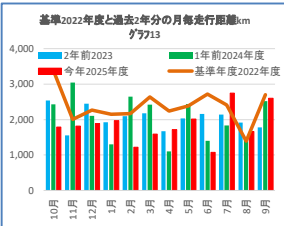
本年2025年度月毎製造消費電力累計の原単位と目標範囲



(4) 走行距離

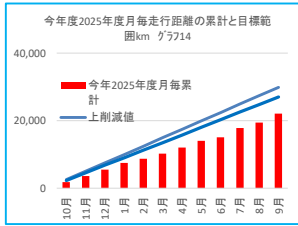
グラフ13

基準2022年度と過去2年分の月毎走行距離



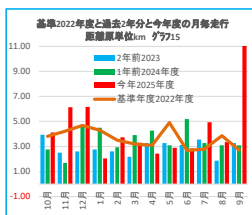
グラフ14

本年2025年度月毎走行距離の累計と目標範囲



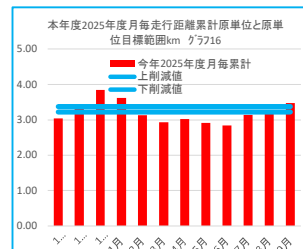
グラフ15

基準2022年度と過去2年分の月毎走行距離原単位



グラフ16

本年2025年度月毎走行距離累計の原単位と目標範囲



弊社の環境経営計画表の取り上げた二酸化炭素(CO2)排出量、電気使用量、化石燃料以外に次のような廃棄物質について廃棄量と原単位廃棄量をグラフ化し、チェック活動資料を考えている。

①再生金属廃棄量 ②水溶性廃油量 のグラフも製作している。

以上グラフ数が20個あり、全てのグラフは、データ倉庫のデータを取り出し自動製作している。

3. 自動製作したグラフの仕組み

第6次中期計画は、2024年度～2026年度である。この第6次中期計画初年度2年前を基準年度(2022年度)とし今年度(2025年度)と過去2年分(2023年度と2024年度)の月ごと「電気使用量のグラフ」の制作を例にして説明する。

(1) データ倉庫の働き

弊社のデータ倉庫は、下記のように黄色地のセルとオレンジ色地のセルにデータが入っている。
黄色地セル部分には、EA21に取組み始めた2006年度(H18年度)から2025年度(R5)年度の月毎電気使用量が入力してある。この黄色地セル部分は、手入力になる。手に有力と同時に以後は全て自動で展開してしていく。
オレンジ色地セル部分には、①基準年度②今年度③昨年度④2年前のデータが自動入力される第1バッファである。ここで確認したいことは、2025年度の8、9月データが「0」になっているのは(青色○)、「自動製作したグラフの仕組み」の項目が2025年の8月に製作しているためである。

項目	年度(和暦・西暦)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
3. 月毎消費電力(kWh)	H18年度 2006年度	8,393	7,608	7,961	7,680	12,627	12,356	11,827	7,188	6,088	6,230	10,295	9,629
	H19年度 2007年度	6,969	6,090	6,090	6,090	10,930	9,030	9,213	5,538	5,290	5,290	2,469	9,289
	H20年度 2008年度	7,795	5,809	5,809	5,809	11,338	9,000	6,460	7,134	6,460	7,134	3,289	9,289
	H21年度 2009年度	6,858	4,947	4,947	4,947	6,777	7,027	4,338	4,933	5,672	10,003	9,363	9,363
	H22年度 2010年度	5,537	4,500	4,500	4,500	9,077	9,077	4,833	5,321	6,185	9,808	10,874	10,874
	H23年度 2011年度	5,746	4,577	6,057	10,576	13,493	9,123	7,300	4,873	5,520	7,112	10,693	9,337
	H24年度 2012年度	7,398	7,398	8,980	10,664	13,767	9,559	8,622	5,475	5,803	5,434	10,607	9,760
	H30年度 2018年度	7,385	5,677	8,011	10,562	12,496	9,537	8,719	6,675	7,358	6,854	11,910	7,033
	R1年度 2019年度	6,601	5,527	6,905	8,507	10,84	8,769	7,819	5,674	8,308	8,006	7,937	7,475
	R2年度 2020年度	7,457	6,253	7,998	8,086	10,03	5	7,162	4,926	6,091	5,774	7,150	4,937
R3年度 2021年度	5,623	5,272	9,134	8,729	11,085	5	5,901	4,729	7,493	9,299	7,490	7,388	
R4年度 2022年度	5,781	5,794	7,791	9,040	11,627	7	5,536	4,806	7,309	8,765	8,975	8,363	
R5年度 2023年度	5,658	5,779	9,527	10,177	10,004	9	5,872	5,973	7,000	10,203	8,493	9,487	
R6年度 2024年度	7,232	7,762	7,266	8,034	9,080	3	5,781	4,483	5,077	7,16	8,322	9,446	
R7年度 2025年度	5,516	3,604	8,663	9,461	8,363	6,776	4,501	3,965	4,910	7,265	0	0	
基準年度	R4年度 2022年度	5,781	5,794	7,791	9,040	11,627	5,536	4,806	7,309	8,765	8,975	8,363	
4年前	R3年度 2021年度	5,623	5,272	9,134	8,729	11,085	5,901	4,729	7,493	9,299	7,490	7,388	
3年前	R4年度 2022年度	5,781	5,794	7,791	9,040	11,627	8437	5536	4806	7309	8765	8975	
2年前	R5年度 2023年度	5,658	5,779	9,527	10,177	10,004	5973	7000	10203	8493	9487	9487	
昨年	R6年度 2024年度	7,232	7,762	7,266	8,034	9,080	7053	4483	5077	8716	8322	9446	
今年	R7年度 2025年度	5,516	3,604	8,663	9,461	8,363	6,776	3965	4910	7265	0	0	

(2) グラフ制作シートへ必要データを自動移動

グラフ制作シートに下記のような第2バッファが自動製作される。

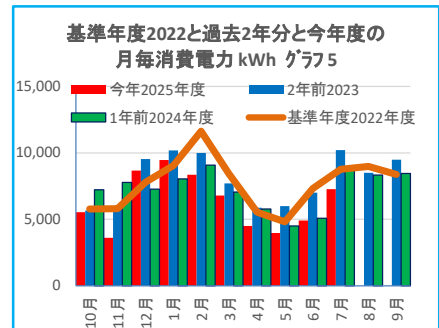
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
基準年度 2022年度	5,781	5,794	7,791	9,040	11,627	8,437	5,536	4,806	7,309	8,765	8,975	8,363
基準年度2022と過去2年分と今年度の月毎消費電力 kWh グラフ5	5,658	5,779	9,527	10,177	10,004	7,709	5,872	5,973	7,000	10,203	8,493	9,487
1年前2024年度	7,232	7,762	7,266	8,034	9,080	7,053	5,781	4,483	5,077	8,716	8,322	9,446
今年2025年度	5,516	3,604	8,663	9,461	8,363	6,776	4,501	3,965	4,910	7,265	0	0

(3) グラフの自動制作

第2バッファを基に、右図のようなグラフが自動制作される。

(4) 年度変更時の考え方

年度が変わった時は、データ倉庫から第1バッファ(オレンジ色地部分)への呼び込み番地を変えれば、第1バッファから第2バッファへデータは自動送りされる。他のデータ項目についても同様に呼び込み番地をコピーすればよい。



6. 2025年度の年度末反省

1. 年度末反省アンケート

弊社は、EA21活動の締めくくりとして年度末に、全従業員を対象にEA21活動と自社発展の取組の提案を自由に記述していただいています。

本年度は、「不良対策報告書」と「作業改善報告書」と「ヒヤリーハット報告書」の活用を重点を当て取組んできました。結果は、なかなか気持ち良く進展しなかった。

従って、今年度の年度末反省報告書は、「ヒヤリーハット報告書」を報告しやすい形式にしました。すなわち、普段の仕事の中で「各自がミスをしないように心がけている取組」の記述を中心に報告をお願いしました。右記アンケート用紙の赤丸部分です。

これらの報告により、各個人個人の財産であったミス防止の取組が、社内全員の共有財産になり、不良率の削減を狙いました。

2025(令和7)年度末「EA21活動の反省点とその具体的な対策」アンケート用紙

【1】2025(令和7)年度の主なEA21活動内容
——第6次中期計画2年目——

- 報告書の取組
報告書は、「誇りある伊藤鉄工」を頭にフィッシュボーンから導き出したもの
名称変更
(1)作業ミス・工程不具合報告書 ⇒不良対策報告書
(2)作業改善・作業改善提案報告書 ⇒改善提案報告書
(3)不良になりかけた報告書 ⇒ヒヤリーハット報告書

【課題】

- (1)始末書的なイメージがある。
- (2)なかなか会議が持たない。
- (3)不良対策を会議の席でお互いに意見を言い合うのも、困難である。
- (4)1次要因～4次要因の記述が難しい。
- (5)改善内容等は、各自がその都度対策しており記述までには至っていない。等々。

2. その他の取組

- (1)啓発用ポスターの掲示
不良対策標語「図面寸法の指差呼称」の掲示
伊藤鉄工くさのポスターの掲示
- (3)EA21の取組の見直し製造消費電力の新設。

【2】2025(令和7)年度の反省・感想等の提出

1, 3種類の「報告書」で、過去の取組で思い出せるものを提出

但し、ヒヤリーハット報告書については、各自がミスをしないように「心がけている取組」を思い浮かべて記述下さい。

お互いがそれらの注意項目を共有し、社内全体の作業ミス、不良率を削減していきましょう。

【記入欄】

2. 年度末反省結果

アンケート方式の反省で、現在はこの方式が定着してきている。

アンケート昼礼配布 2025.9.1

アンケート提出期限2025年9月12日

2025(令和7)年度末 まとめ昼礼配布・報告 2025年10月6日

「EA21活動の反省点とその具体的な対策」アンケートまとめ

1. 「3種類の報告書(不良対策報告書・改善提案報告書・ヒヤリハット報告書)」で、年度末に提出できるもののまとめ

- 3種類の報告書様式の見直し。
- ヒヤリーハット報告書
 - 磁石によるクレーン操作
 - 磁力以上の重量は、別の方法を考える。
 - 磁石に吸引している切粉が製品に傷をつける。
吸引面の清掃を徹底
 - クレーンの繊維吊りベルトの破断
重量物を低いつり上げで搬送
- 改善提案報告書
 - ドリルの整理(ドリル径、平ドリル、段付きドリルの仕分け)

2. 感想その他(持続可能を目指す取組・余裕時間の使い方、ご意見等)

- 報告書を提出して終わりではなく、今後どのように生かすかを考えなければいけないと思います。
- 伊藤鉄工として社内で課題を作り取組むと良いと思います。例として次の様なことです。
 - 1~2時間自動で加工できるシステム、将来的には夜間自動加工できるシステムを構築する。必要によっては外部の技術指導を受ける。
 - 段取時間の短縮を工具・治具等の改善で取組む。
 - 弊社独自で、AI技術を導入して(?)加工ミス削減方法を研究する。
 - 社内の「無理・無駄・ムラ」を見つけ対策をする。また、3ムの1項目でも良いから課題にする。
- 社内で各自のさぎょうの中で初歩的で簡単な作業を挙げ、手の空(あ)いている人が応援できるシェア体制を作り納期を厳守、また弊社の仕事量を多くしていく。
- シェア体制を強化するために多能工化に取り組む
- 今回駐車場のアスファルト化により様々な物が整理できた。今後もこの考え方で、整理整頓に取り組んでいく。
- 弊社のホームページが更新されていない。
- エコアクション21の資料・取組・システム化等の簡素化が必要である。
- 社内の様々な伝達事項(報連相:報告・連絡・相談)を確実にすること。
- 1度ミス・間違ったことは、メモをし、同じことの繰り返しをない様に報告書を書く。
- 社員数が少なくなったことで、お互いが助け合っって少しでも効率よく出来るようにする。
- 取組を色々していますが、成果が分かりづらいです。

3. 3点セットの取組

不良対策報告書

改善提案報告書

ヒヤリーハット報告書

不良率低下の「標語」で「実践」的取組

「誇れる企業を目指す」をフィッシュボーンの頭にした課題解決手法でたどり着いた「不良対策報告書」及び「改善提案報告書」及び「ヒヤリーハット報告書」に対して、忌憚のないご意見を頂く。それらは、大変厳しい課題ですが、次年度の継続課題として取組んでいきたい。



VI.今年度の「日常のPDCA活動」の実践

下記実践は、持続可能な伊藤鉄工を願うが故に、出てきた実践である。すなわち、これらの実践には、各自の「熱・物語」が宿っている。その物語を大切にEA21を継続していきたい。

1. 安全衛生

エアフィルタの掃除
※夏場になる前にフィルター掃除

エアドライヤーのフィルター交換
※工場内の空気は、こんなに汚れている

交換前・後状

2. 環境保全

水溶性廃油の業者引取り

工場内への侵入スロープの製作
※運搬車で工場内への侵入の不都合を解消

製作したスロープ

3. 整理・整頓

弊社駐車場兼材料置き場をアスファルト舗装する為、工場内外の不要物を廃棄処分
※断捨離

断捨離後の砂利駐車場

アスファルト舗装作業

整理整頓された駐車場と材料置き場



改善前



改善後

4. 修理

複合旋盤のエア減圧弁交換



屋外コンプレッサ出口のエアホースからエアの漏れ
※エアホースの交換



ホースの交換

プラスチックハンマの
頭部交換



エアホースからの
エア漏れ修理



ラジアルボール盤の腕部分の上昇がしない
※修理業者に来ていただき、主軸の交換



主軸の交換

ハンドグラインダーが回転しない



硬くて砥石が回転しない

座金を入れる



5. 質的向上

伊藤鉄工しぐさ
※「みてござる」しぐさ



ドリル研磨機のマニュアル製作

※社内の誰もが使えるようドリル研磨機の取扱いマニュアルの製作

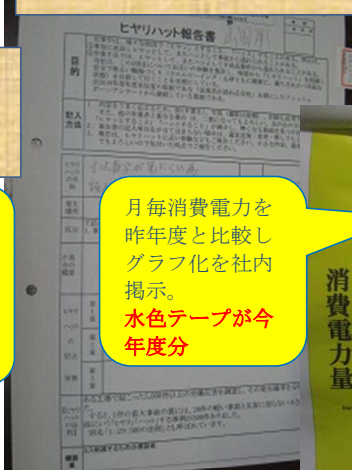


ドリル研磨機



ヒヤリハット報告書の様式

※弊社独自の報告書がうまく展開することを願い見本を昼礼で配布

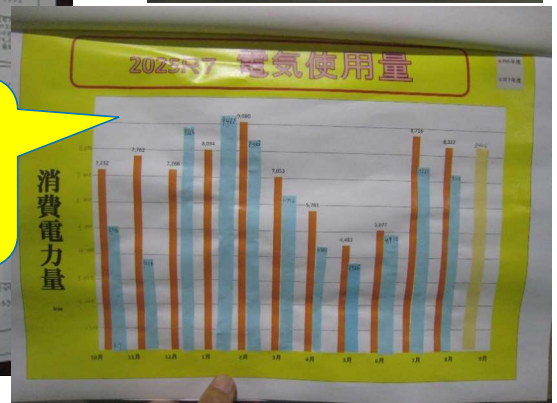


A4紙1枚に弊社の環境目標をまとめる
※太平洋工業の環境目標がA4紙1枚にまとめているのを見て、弊社もA4紙1枚に環境目標をまとめ昼礼で報告し弊社の掲示板に2枚張る。



昼礼での報告
1枚は太平洋分
もう1枚は、弊社分

毎月消費電力を
昨年度と比較し
グラフ化を社内
掲示。
水色テープが今年
年度分





Ⅶ.環境経営目標の実績と評価

この項目は、各環境負荷物質について、排出量とそれに対する原単位を過去2年分と本年度分(実績値)の3年間で表とグラフで削減状況が見える化してある。それらから、無駄部分を見つけ出すデータにしたい。

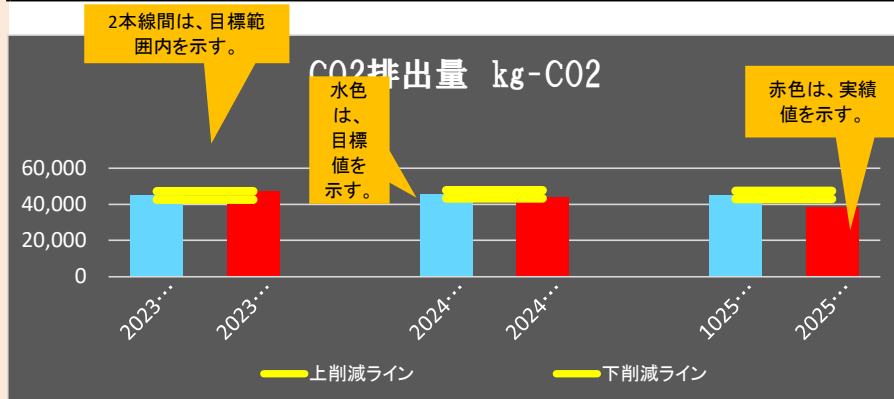
この項目の記述方法

1. 排出量と原単位について、年度ごとの目標値を水色 、実績値を赤色 の棒グラフ化してある。
2. 実績値が目標値に達しているかの判定を○△×印で示している。
3. 上記項目2の判定は、統計的誤差を±5%とし、○印は削減有、△印は削減判定外、×印は削減無しとする。黄色の直線は、目標値に対して±5%の値を示している。
4. 目標値は、中期計画初年度の2年前の実績値を基準年度とし、スローガンに従って、中期計画1年目、2年目、3年目と削減量を増やしていく。
5. 基準年度を中期計画初年度の2年前としたのは、削減環境を基準年度に近いと削減取組が比較しやすいと考えた為である。
6. 上記5の考え方だと、第6次中期計画は2024年度～2026年度になる。それに対して下記の「1. 環境負荷ごとの削減状況」は、2023年度～2025年度に当たる3年間のデータを取り扱っている。結果、2023年度の基準年度は2019年度になり、2024、2025年度の基準年度は2022年度になる。
7. 環境負荷物質の電気使用量のみ削減目標値を下げており他の物質は、各種物質の特性について記述します。従って、削減目標値は、基準年度と同じになる。

1. 環境負荷ごとの削減状況

1. CO2排出量の削減

CO2排出量 kg-CO2	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	44,889	46,964	45,482	43,940	45,153	38,478
評 価		△		△		○

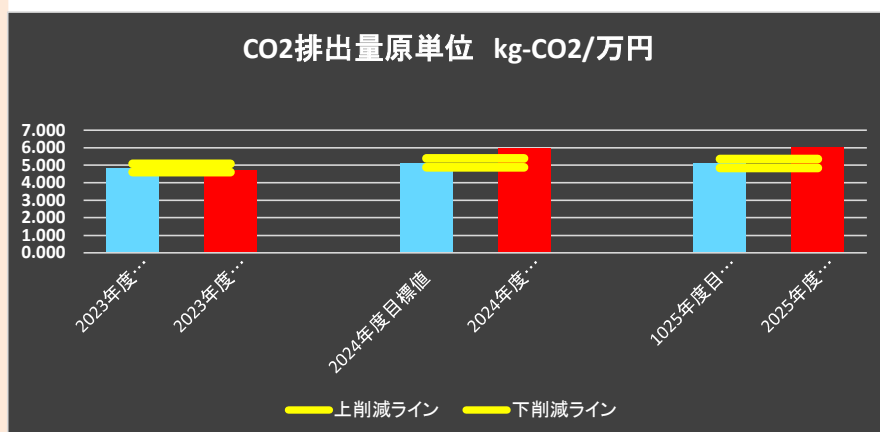


考 察

本年度は、削減が○である。ただ、今年度は、仕事が少ない、結果電気使用量が少ないのが影響している。

2. CO2排出量原単位の削減

CO2排出量 原単位 kg- CO2/万円	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	4.840	4.744	5.139	5.965	5.101	6.054
評 価		△		△		○

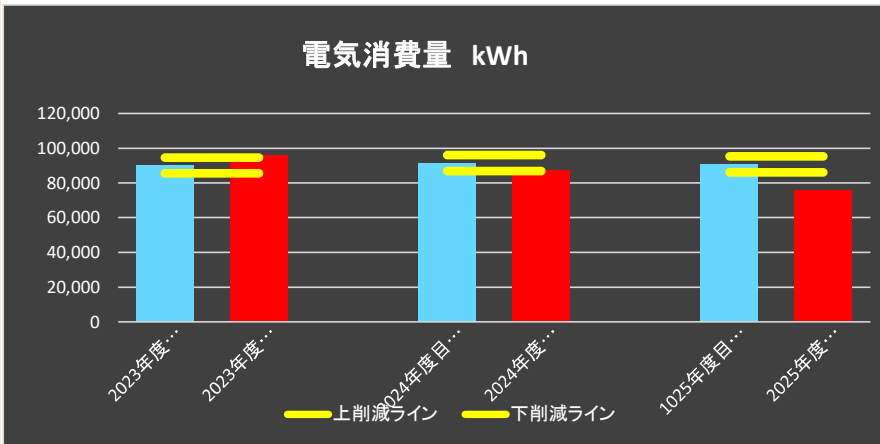


考 察

今年は、売上げが極端に少ないのが影響し、過去にない気温が高温で仕事量(売上)に対してエアコン使用量が増加しているようだ

3. 電気消費量の削減

電気消費量 kWh	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
		90,181	95,882	91,494	87,252	90,765
評価	/		△		○	

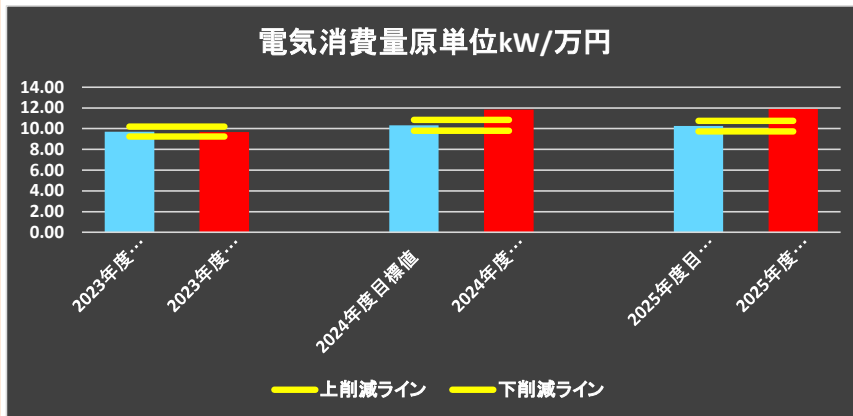


考察

仕事量が少なく機械の稼働率が少ないのが原因である。

4. 電気消費量原単位の削減

電気消費量原単位kW/万円	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	2025年度目標値	2025年度実績値
		9.72	9.68	10.34	11.84	10.25
評価	△		×		×	

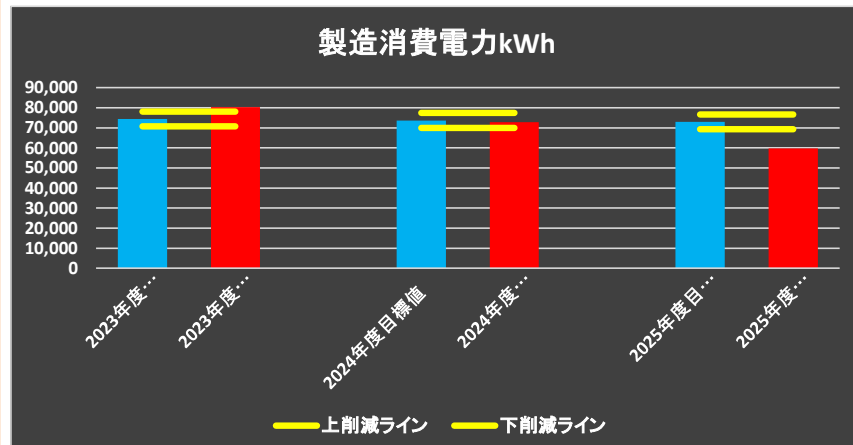


考察

機械の稼働率が少ないが、売り上げが極端に少ないため原単位は悪化している。
作業効率の関係も調べたい。

5. 製造消費電力の削減

製造消費電力 kWh	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	2025年度目標値	2025年度実績値
		/	/	73,680	72,780	72,951
評価	/		△		○	

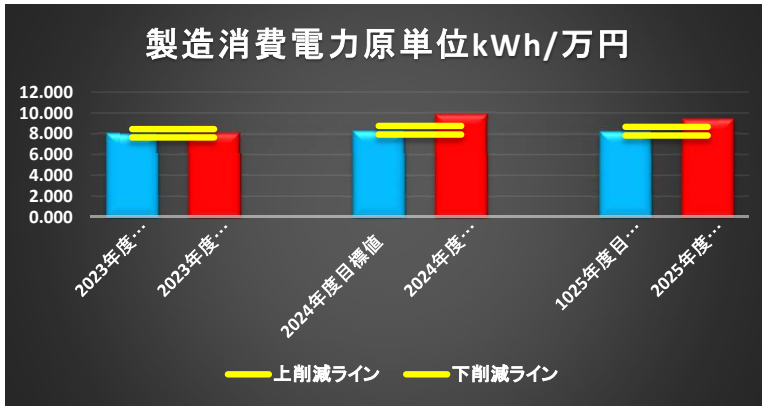


考察

今年度初めて取り入れた考え方である。
この考え方を当分継続し、定点観測をしていきたい。

6. 製造消費電力原単位の削減

製造消費電力原単位 kWh/万円	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	8	8	8	10	8	9
評価		△		×		×

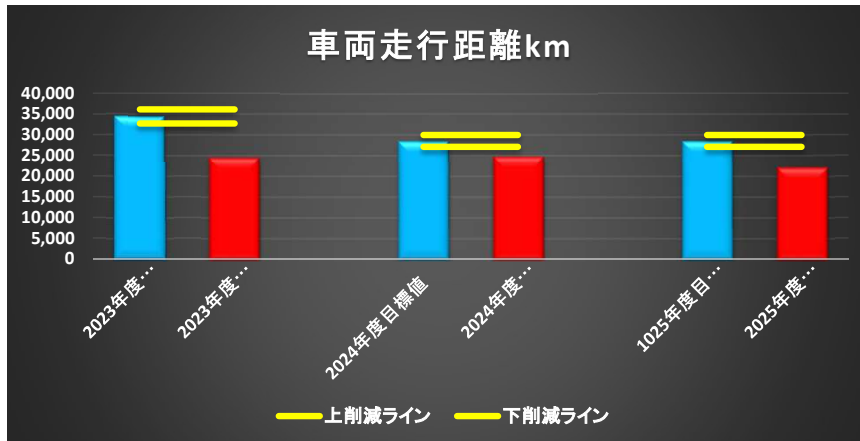


考察

この部分が、私たちの唯一削減しやすい部分だと考えます。
 定点観察で、効果的な取組を見つけていきたい。

7. 車両走行距離の削減

車両走行距離 km	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	34,393	24,439	28,472	24,748	28,472	22,093
評価		○		○		○

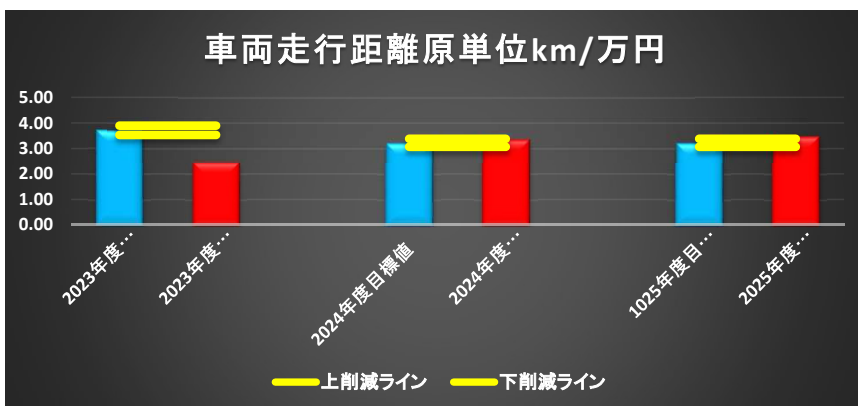


考察

やはり仕事が無くなったことは、大きく影響しているから、単純に削減できたこと喜んでおれない。

8. 車両走行距離原単位の削減

車両走行距離原単位 km/万円	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	4	2	3	3	3	3
評価		○		△		×

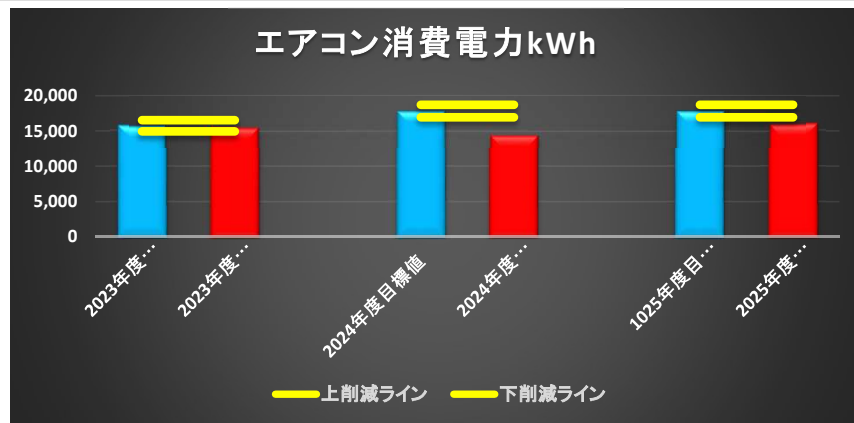


考察

悪化している。
 何かイノベーション的に取組むことも視野に入れた事業活動が必要である。

9. エアコン消費電力の削減

エアコン消費電力kWh	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	15,730	15,506	17,814	14,472	17,814	16,009
評価		△		○		○

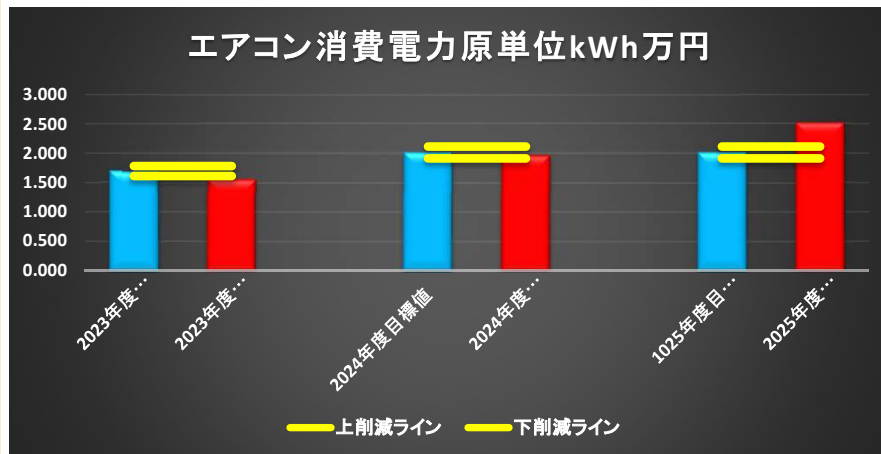


考察

予想外の結果である。
夏場を考えていたが、冬場についても考えないといけない。
また、残業が無くなったことの影響も考える必要がある。

10. エアコン消費電力原単位の削減

エアコン消費電力原単位kWh万円	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	2	2	2	2	2	3
評価		○		△		×

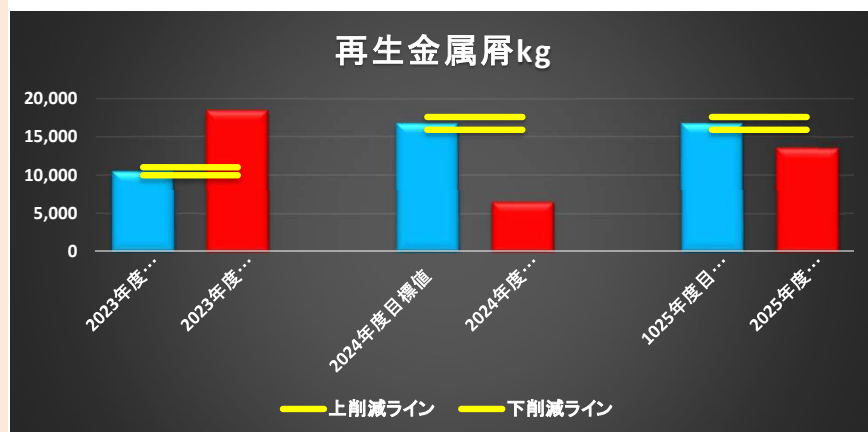


考察

やはり、気候変動がどのように影響しているかを仕方がないで無く、精査することも必要である。

11. 再生金属屑の削減

再生金属屑kg	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	10,505	18,453	16,771	6,513	16,771	13,557
評価		×		○		○



考察

鉄屑としては、数か月蓄積して、場合によっては10か月を蓄積して業者に販売している。
その状態を月平均で処理していることを考えれば、もう少し意味のある集計方法を考えたい。

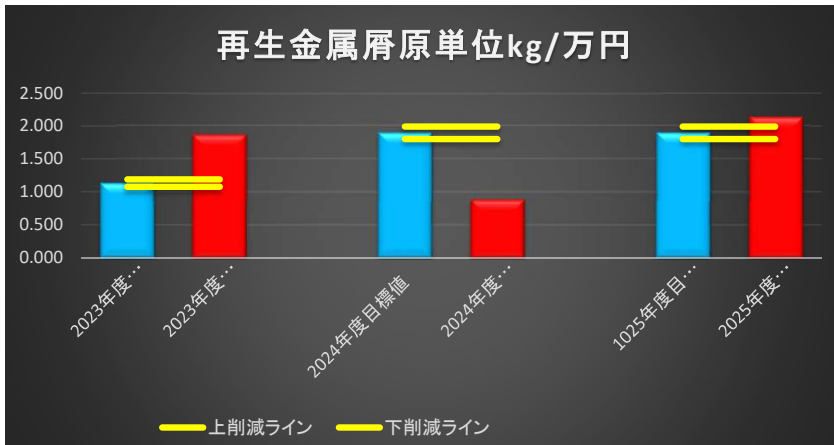
※金属屑の分別

2025年9月8日の金属屑分別状況

材質品目名	数量(kg)	材質品目名	数量(kg)	材質品目名	数量(kg)
鋼ダライ粉	650	ウス	390	アルミ缶・バラ	1
砲金コロ	19	黄銅雑コロ	20	モーター屑	14
機械屑	80	アルミ合金・コロ	115	SUS430(18クロム)	50
SUS304・削粉	138	SUS304(18-8ステン)	928	鉄屑	1,320

1.2. 再生金属屑原単位の削減

再生金属屑原単位kg/万円	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	1.13	1.86	1.89	0.88	1.89	2.13
評価		×		○		×

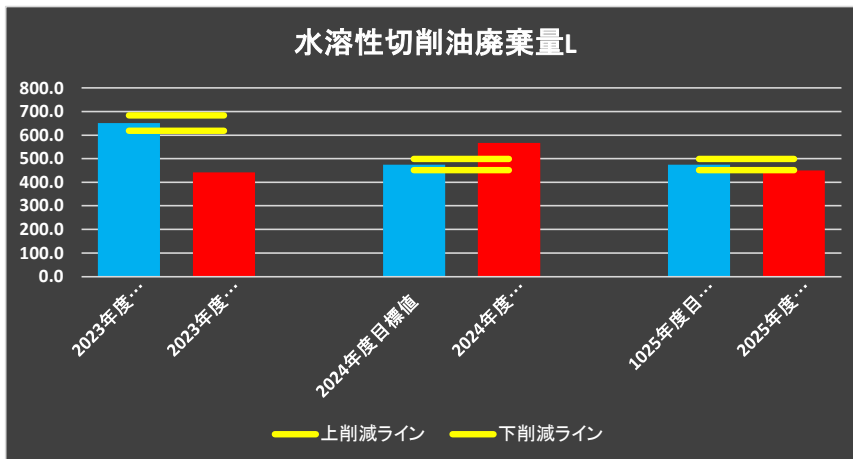


考察

2025年度は、工場内の一斉整理をした為、過去の廃材等廃棄しているため、データとしては、使えないデータである。

1.3. 水溶性切削油廃棄量の削減

水溶性切削油廃棄量L	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	651	442	475	568	475	450
評価		○		×		○

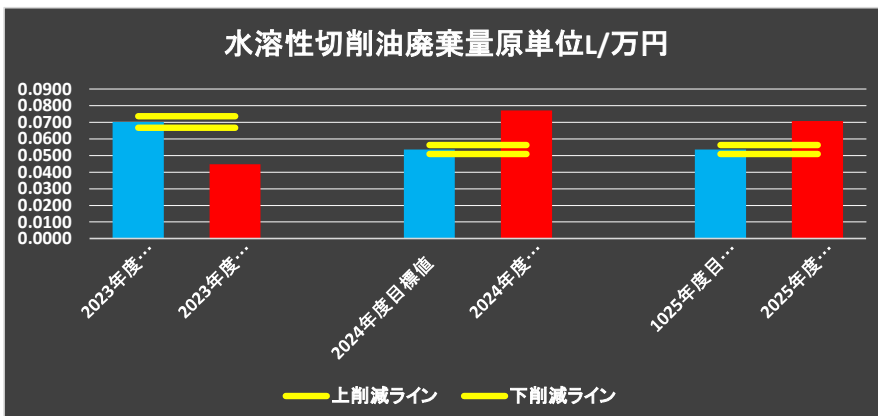


考察

切削油の交換は、メカニックが個人の判断で交換している。また、廃棄は、2000ドラム缶3本満タン(6000)になったとき廃棄します。従って、データとしては、月平均にしています。そのようなデータをどう取り扱ったらよいかなかなか困難である。

1.4. 水溶性切削油廃棄量原単位の削減

水溶性切削油廃棄量原単位L/万円	2023年度目標値	2023年度実績値	2024年度目標値	2024年度実績値	1025年度目標値	2025年度実績値
	0	0	0	0	0	0
評価		○		×		×

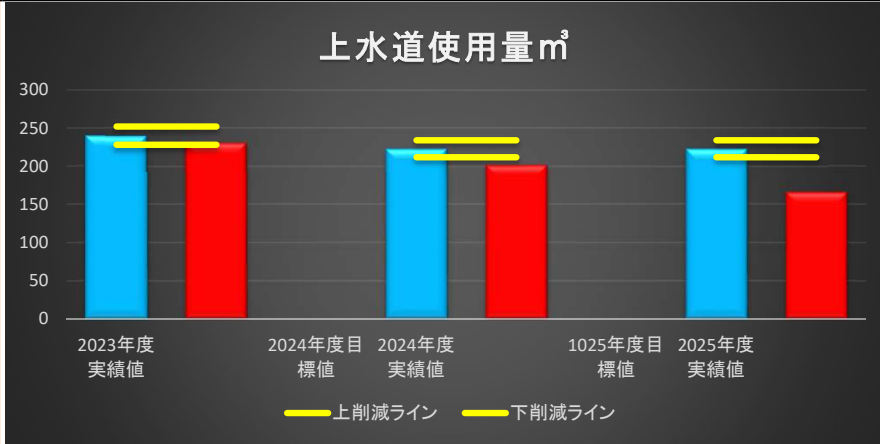


考察

特に考察しようがないデータである。ただどのくらい廃棄しているかをイメージするためのデータである。

15. 上水道使用量の削減

上水道使用量 m ³	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	240	231	223	202	223	166
評 価		△		○		○

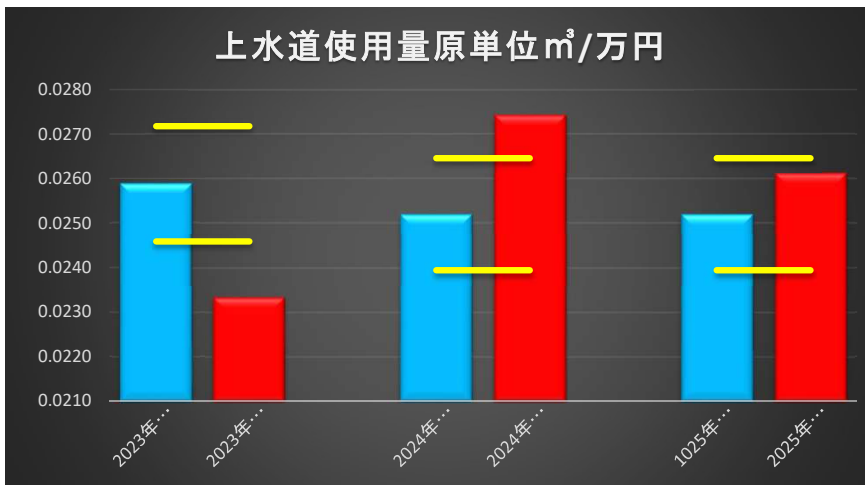


考 察

上水道は、生産活動では殆ど使っていない。これについても、どのくらい消費しているかをイメージするためのデータである。

16. 上水道使用量原単位の削減

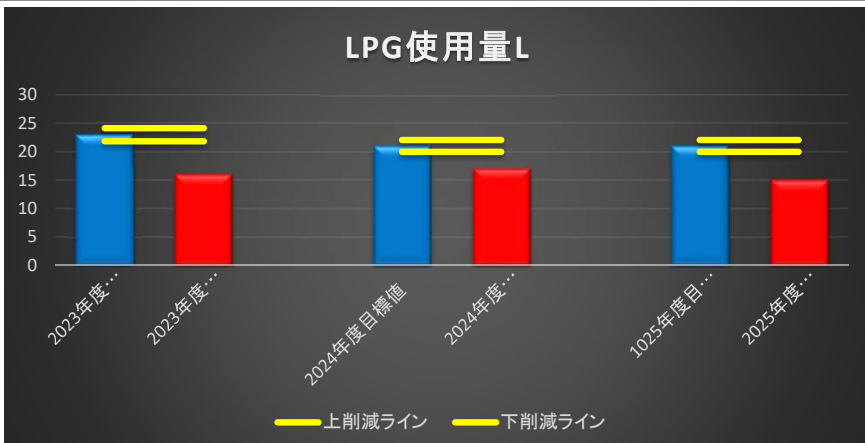
上水道使用量原単位 m ³ /万円	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	0.02588	0.02333	0.02519	0.02742	0.02519	0.02612
評 価		○		×		△



考 察

17. LPG使用量の削減

LPG使用量 L	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度目 標値	2024年度 実績値	1025年度目 標値	2025年度 実績値
	23	16	21	17	21	15
評 価		○		○		○

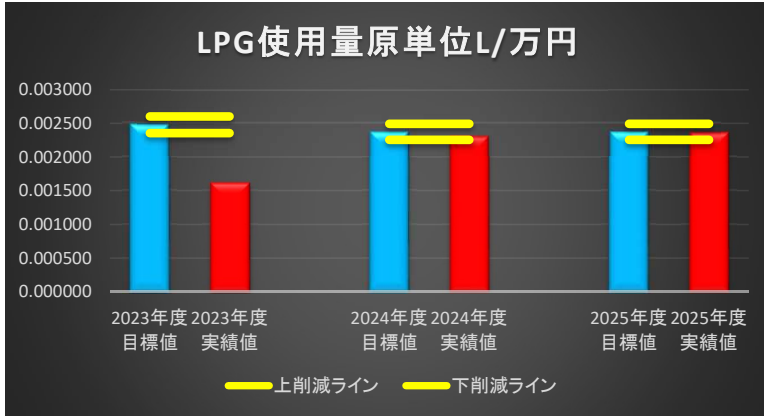


考 察

LPGは、製造工程で殆ど使用していない。しいて言えば、社員のお茶程度である。

18. LPG使用量原単位の削減

LPG使用量 原単位L/万 円	2023年度 目標値	2023年度 実績値	2024年度 目標値	2024年度 実績値	2025年度 目標値	2025年度 実績値
	0.00248	0.00162	0.00237	0.00231	0.00237	0.00236
評価		○		△		△



考察

製造工程では使用しないが、会社としての建物からCO2を排出しているため、CO2排出量には、電気、ガソリンなどに加えて集計はしている。
SDGsの立場からはどう捉えたらよいかは、今後の課題になる。

Ⅷ. 次年度以降の環境経営目標及び計画

1. 目標と取組

1. EA21の基本的な取組

E A 2 1 ガイドラインから弊社は次の5項目を目標に定めると読み取っている。私達は、これらの目標に沿った日常の操業の中で取組の内容を決定し、実践していく事にする。

目標	取組内容
①企業価値を高める	1. 弊社の経営理念に基づいた取組 弊社の経営理念 (1)お客様のご要望に「確かな技術・誠実な対応」で応え、社会の発展に貢献する。 (2)ものづくりを通して社員の人的成長を図る。
②環境負荷の削減	1. システム化してきた今日までの取組の継続。 ①改善点検表の活用 ②設備管理シートの活用 ③天井クレーン日常点検票の活用 ④機械カルテの活用 ⑤エアコン・ドラテヤーのフロンガスの管理票の活用 ⑥昼の消灯点検票の活用 ⑦ガソリン、軽油の使用量とその金額の調査 ⑧EA21削減項目の計測・集計等々 2. C会議、昼礼(昼会)の活用 3. 改善活動の推進
③コストを削減	1. 「作業ミス、作業工程不具合報告書」「作業改善・作業改善提案報告書」の有効活用。 数多くの報告書を提出頂いた。この宝の山の報告書をどの様に育成していくかが、全従業員の課題である。
④社員の活力を生かす	1. ③と同様な「作業ミス、作業工程不具合報告書」「作業改善・作業改善提案報告書」の有効活用 2. 全員参加型の各種会議の有効活用
⑤社員が誇れる企業にする	1. ③と同様な「作業ミス、作業工程不具合報告書」「作業改善・作業改善提案報告書」の有効活用 2. 全員参加型の各種会議の有効活用 特に、①美しい心 ②感謝する心 ③人として正しい言動を抛りどころにして実践活動をしている。

2. 目標設定

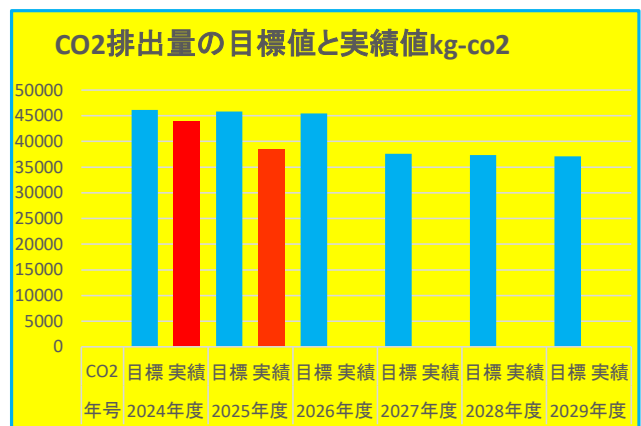
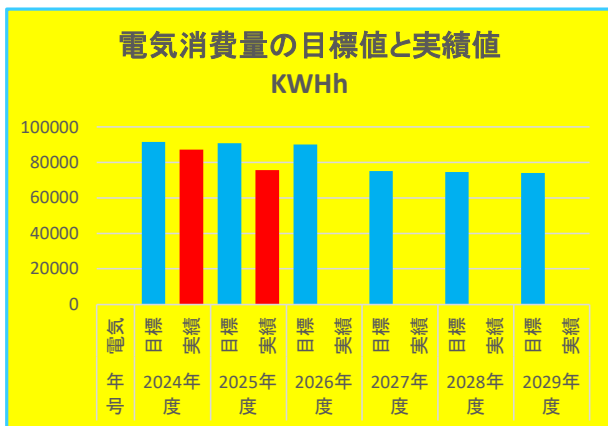
弊社の場合の次年度以降の環境経営目標値設定は、スローガンから目標値を設定している。また、目標値設定に当たっては、基準年度に対して何パーセント向上させるかと、計算式で表示します。その場合の基準年度は、中期計画初年度の2年前としている。

それらを勘案しての弊社の計画表は、下記のような過去の2024年度から2027年度までの計画表になります。

項目	(1)CO2排出量 kg-CO2NO.36	(2)電気消費量 kWhNO.3	(3)製造消費電力 kWhNO.44	(4)車両走行距離 kmNO.48	(5)エアコン消費電力 kWh NO.40	(6)再生金属屑 kg NO.70	(7)水溶性切削油廃棄量 L NO.80	(8)上水使用量 m ³ NO.78	(9)LPG使用量 m ³ NO.25	
	CO2排出量原単位 kg-CO2/万円 NO.39	電気消費量原単位 kWh/万円 NO.6	製造消費電力原単位 kWh/万円 NO.47	車両走行距離原単位 km/万円 NO.51	エアコン消費電力原単位 kWh/万円 NO.43	再生金属屑原単位 kg/万円 NO.73	水溶性切削油廃棄量原単位 L/万円 NO.83	上水使用量原単位 m ³ /万円 NO.81	LPG使用量原単位 m ³ /万円 NO.28	
基準年度2022年の 排出量	総量単位	46,521	92,224	74,410	28,472	17,814	16,771	475.3	223	23
	原単位	5.26	10.42	8.41	3.22	2.01	1.89	0.0537	0.0252	0.00260
	削減率									
第6期中期計画 初年度2024年の 目標値	総量単位	46,123	91,494	73,680	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率	0.86%	0.79%	0.98%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.21	10.34	8.32	3.22	2.01	1.89	0.05	0.03	0.00
第6期中期計画2年 目2025年度の 目標値	総量単位	45,788	90,765	72,951	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率	1.57%	1.58%	1.98%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.17	10.25	8.24	3.22	2.01	1.89	0.05	0.03	0.00
第6期中期計画最 終年度2026年度 の目標値	総量単位	45,453	90,035	72,221	28,472	17,814	16,771	475	223	23
	削減率	2.29%	2.37%	2.94%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.14	10.17	8.16	3.22	2.01	1.89	0.0537	0.0252	0.0026
項目	(1)CO2排出量 kg-CO2NO.36	(2)電気消費量 kWhNO.3	(3)製造消費電力 kWhNO.44	(4)車両走行距離 kmNO.48	(5)エアコン消費電力 kWh NO.40	(6)再生金属屑 kg NO.70	(7)水溶性切削油廃棄量 L NO.80	(8)上水使用量 m ³ NO.78	(9)LPG使用量 m ³ NO.25	
	CO2排出量原単位 kg-CO2/万円 NO.39	電気消費量原単位 kWh/万円 NO.6	製造消費電力原単位 kWh/万円 NO.47	車両走行距離原単位 km/万円 NO.51	エアコン消費電力原単位 kWh/万円 NO.43	再生金属屑原単位 kg/万円 NO.73	水溶性切削油廃棄量原単位 L/万円 NO.83	上水使用量原単位 m ³ /万円 NO.81	LPG使用量原単位 m ³ /万円 NO.28	
基準年度2025年の 排出量	総量単位	37,914	75,739	59,730	22,093	16,009	13,557	450.0	166	15
	原単位	5.96	11.92	9.40	3.48	2.52	2.13	0.0708	0.0261	0.00236
	削減率									
第7期中期計画 初年度2027年の 目標値	総量単位	37,600	75,153	59,144	22,093	16,009	13,557	450	166	15
	削減率	0.83%	0.77%	0.98%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.92	11.82	9.31	3.48	2.52	2.13	0.07	0.03	0.00
第7期中期計画2年 目2028年度の 目標値	総量単位	37,331	74,568	58,558	22,093	16,009	13,557	450	166	15
	削減率	1.54%	1.55%	1.96%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.87	11.73	9.21	3.48	2.52	2.13	0.07	0.03	0.00
第7期中期計画最 終年度2029年度 の目標値	総量単位	37,063	73,982	57,973	22,093	16,009	13,557	450	166	15
	削減率	2.25%	2.32%	2.94%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	原単位	5.83	11.64	9.12	3.48	2.52	2.13	0.0708	0.0261	0.0024

特に、スローガンに関してみれば、電気消費量のみの削減を考えています。それを見える化します。

すなわち、電気使用量とCO2排出量とについて1224年度から6年間の目標値をグラフ化します。また、過去については、実績値も表示します



【2020年度の取組】

①「作業ミス・作業工程不具合報告書」及び②「作業改善・作業改善提案報告書」の活用に決定

2種類の取組を1年ごとに「種まき」、「育成」、「収穫」に分けて2023年度収穫にしていた。ところが、なかなか社内に定着しない為2023年度に引き続き2024年度「収穫」の期間にした。

ただし、「作業ミス・作業工程不具合報告書」は、**始末書的になるため研究課題**であった。

【課題】

- (1)特に、「作業ミス・作業工程不具合報告書」は、**始末書的**になり活用方法の研究が必要である。
- (2)作業改善・作業改善提案報告書は、各作業者は常に**作業改善の連続**である。忙しい中、記述する時間が無い。

【2023年度の反省】

「作業ミス・作業工程不具合報告書」を「不良対策」に名称を変更する。

【対応】

「作業ミス・作業工程不具合報告書」を「不良対策」とし、**始末書的なイメージ**を払拭する。

【2025年度以降の取組】

報告書を次の3種類にする。

- ①「不良対策報告書」②「改善提案報告書」
- ③「ヒヤリーハット報告書」

【対応】

「始末書」的なイメージを更に払拭することから「不良になりかけた報告書」になり、現在は「ヒヤリーハット報告書」になる。
弊社のヒヤリーハット報告書は、①ミスになりかけた場合と、事故になりかけた場合の両面の報告書にしている。

4. EA21の取組みシステムの見直し

第5次中期計画で実施してきたEA21の取組システムの見直しの中で、整備のし直し部分が多数出てきた。これらを継続して、より効果的なEA21の取組にしたい。

最大の課題は、四半期ごとにチェック活動として位置付けたC会議の改善である。

現在の名称

5. まとめ(報告書の名称の変遷)

- ①「作業ミス報告書」⇒「作業ミス・作業工程不具合報告書」⇒「作業ミス・工程不具合報告書」⇒「**不良対策報告書**」
- ②「作業改善報告書」⇒「作業改善・作業改善提案報告書」⇒「作業改善報告書」⇒「**改善提案報告書**」
- ③「不良になりかけた報告書」⇒「**ヒヤリーハット報告書**」

2025年度以降の取組重点

- (1) 次年度は、EA21の取組システムの見直し
 - (2) 次年度以降は、EA21の取組の見直しと並行して
 - ①「不良対策報告書」 ②「改善提案報告書」
 - ③「ヒヤリーハット報告書報告書」
- 以上の活用(3点セット)を研究すること。

この取組の結果

「環境負荷の削減」は着(つ)いてくる。



Ⅸ.環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

下記項目の点検は、副環境経営責任者が本年度分(2025年9月30日まで)を検査した結果である。

法規等名称	内 容	処 理 年 月 日	点検結果
大垣火災予防条例 第68条	発電設備・変電設備・蓄電池設備、設置届 <保管場所：ファイル名「エコアクション21環境関連諸届」の付箋番号1>	大垣消防組合消防長宛、平成10年3月2日届済	○

大垣火災予防条例 第69条	溶接・溶断作業届 〈保管場所：ファイル名「エコアクション21環境関連諸届」の付箋番号2〉	大垣消防組合消防長宛、 平成12年4月24日届済	○
岐阜県公害防止条例 第48条第1項	特定施設の設置の届出（施設の種類：走行クレーン） 〈保管場所：ファイル名「エコアクション21環境関連諸届」の付箋番号3〉	平成21年12月4日付 番号「21第 騒-34号」 の受理書受取済	○
廃棄物の処理及び清掃に 関する法律 第12条の3第7項	産業廃棄物管理票交付等状況報告書 〈保管場所：ファイル名「エコアクション21環境関連諸届」の付箋番号4〉	岐阜県知事宛 令和7年6月3日報告済	○
廃棄物の処理及び清掃に 関する法律 第12条の3第1項	産業廃棄物管理票交付（事業系マニフェスト） 〈保管場所：ファイル名「月別データ集計表（R5） 年度分」（マニフェスト）」の付箋番号12	産業廃棄物管理票のR7年度分最終 は、令和7年9月2日に200L（200Lのド ラム缶1缶）の廃油を廃棄	○
フロン排出抑制法	当社のエアコン（7.5kw未満）及びエアードライ ヤーの簡易点検簿で実施	簡易点検簿の記帳 最終点日令和7年8月23日確認	○
高圧ガス保安法 第20条の5	「高圧ガス周知文書」の掲示	令和7年9月30日に「高圧ガス周知文 書2024年版」を溶接台付近の遮蔽板 で確認	○

以上の法律に基づき正しく遵守していることを確認しました。

2. 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

2025年度は、環境関連法規等への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は、過去3年間は無し。



X. 代表者による全体評価と見直し・指示

1. 概評

24年度と25年度と消費電力量が減っているのはその間に従業員が順次3人辞めたため、使用していた加工機械を使わなくなったのが原因です。固定電力は作業員1人でも10人でも同じように工場の照明を付けエアコンも付けています。コンプレッサーのエアの電力量も工場配管の関係上ほとんど同じです。エアコンなどの固定電力量が変わってないため生産原単位の電力量は、24年度は過去最悪になり25年度はそれを更新しています。このままでは26年度はもっと悪くなります。電力量が減ったと喜んでいる場合じゃないです。減った原因は景気が悪く仕事量が減ったのと従業員が3人辞めたためです。人が減ったり、売り上げが変動する会社は目標を原単位にしないとだめだと思います。また固定電力の変動電力化が重要になってきます。最後に不良対策は非常に良いことで今後も期待しています。

2. 見直し指示

“環境経営方針”、“環境経営目標及び環境経営計画”、“実施体制”については特に問題ははありません。

- (1) 環境経営マニュアル
エコアクション21が継続するようマニュアルの見直しを継続してほしい。
- (2) 環境への負荷の自己チェック表
このチェック表から作業効率向上の取組を見つけ出してほしい。
- (3) 環境への取組の自己チェック表
全社員によるこの取組の自己チェックは、継続してほしい。
- (4) 産廃許可証の管理
各種の産廃許可証の有効期限が切れないよう管理して、産業廃棄物の適切な管理をしてゆきたい。
- (5) 報告書の活用
「不良対策報告書」と「改善提案報告書」と「ヒヤリーハット報告書」は、従来のスローガン方式の取組が抽象的であることに対して、具体的になってきており効果を期待したい。
- (6) C会議
コロナ禍でやむを得ず会議が文書会議になったが、効果的な部分もある。C会議の効果的な運営を推進してほしい。
- (7) その他
エコアクション21の取組が簡易になるよう見直しを継続してほしい。

編集後記

「弊社のエコアクションの取組の見直しをします」と、言いましても色々な角度からの見直しをすることが必要であり、その角度が有機的に結合している結果であれば大変な作業になる。ただ、先延ばしするとなく今回気付いた取組の見直しから変更作業に取組んだ。

その1つ目は、本文と重複するが消費電力を2種類のカテゴリーに分けていることである。昨年度までは、変動消費電力と固定消費電力であったが、今年度からはエアコン消費電力と製造消費電力の2種類に分けたことである。

この事により、スローガンによる消費電力の削減目標内訳は、エアコン消費電力の削減は目標からはずし、製造消費電力分からのみ削減する考え方になり、より現実的にした。ただ、この変更は、こんにちまで蓄積してきたデータ倉庫の仕組みの変更が発生し、大変な作業になった。その分勘違い的な部分を含めて、定点観察でより現実的に削減していきたい。

2つ目は、従来からの継続課題である報告書の活用である。報告書とは、①不良対策報告書 ②改善提案報告書 ③不良になりかけた報告書であるが今年から③番の名称を変更(進化)して③ヒヤリハット報告書になる。

この報告書こそ私達の日常の操業活動から見つけ出せる具体的な環境負荷削減取組みである。その結果、削減は着(つ)いてくると信じている。これが、世の中の真理であると信じている。

以上2項目は、弊社が長年培ってきたエコアクション21の取組結果で、弊社独自の形態だと思っている。いままさらながら継続する中からアイデアが地下水のごとく湧いてくるのかなと思っている。

今後の取組に楽あれば苦も有ると思いますが、伊藤鉄工方式で全従業員が一致団結して取組み、微力ではありますが、エコアクション21への道を、SDGsへの道を、地球環境保全への道を歩み続けたい。

